

2 令和元年度事業の実績

(1) 学校・家庭・地域の協働による未来を担う人財の育成

- ア 地域学校協働活動の促進
- イ 地域が支えるキャリア教育の充実
- ウ 子どもの読書活動の充実
- エ 家庭教育支援の充実
- オ 青少年の体験活動の充実

県生涯学習課

「地域のお宝」を学び地域活動を担う高校生育成事業 3,414千円

【事業目的及び概要】

地域への愛着と誇りを持って地域活動に参加し、地域の魅力を発信できる高校生を育成することを目的とし、自然・史跡・食・伝統芸能などの地域資源の魅力を、学びと体験を通じて再認識し、それらに関連付けて紹介する取組の企画・実践及び発表を行う事業である。

【事業内容及び結果】

(1) 「地域のお宝物語」の実践

ア 実行委員会の設置(平成30年度から継続して、12市町村の実行委員会への委託)

- 委員構成：高校生、若者・シニア世代、市町村教育委員会職員、企業・NPO、大学等の職員
- 委託期間：委託決定日～令和2年3月上旬

イ 委託内容

○実行委員会の開催

前年度企画した内容をブラッシュアップして実践するための、方向性や日程等に関する会議

○各種ワークショップの開催

「地域のお宝物語」の実践に係る勉強会、研修会、体験活動、まとめ

(2) 取組成果のプレゼン大会

○日時：2/1(土)13:00～16:00

○場所：アピオあおもり(青森県男女共同参画センター)イベントホール

○対象：12市町村実行委員会委員、市町村教育委員会職員、学校の教職員、保護者、地域づくり実践者、一般県民等

○参加者数：222名

○内容：12市町村実行委員会代表の高校生による発表、審査委員による講評・助言

むつ市 おーちゃんとゆく！ワクワク大湊探検

大鰯町 OH!!鰯 元気隊キッズが町を元気にする！

三戸町 郷土の食を学び、三戸町“粉もん文化”の新レシピを紹介

平内町 平内町とハクチョウとおばちゃん。

青森市 男の3分間クッキング 青森魅力発信編

三沢市 みさわBBQの魔法

黒石市 上十川地域に語り継がれる伝統文化

階上町 はしかみキッズではしかみいとこ広め隊！

つがる市 僕らの初恋物語「馬ねぶたに捧げた夏」

東通村 東通村の地域資源を活用した「社会起業」プロジェクト
～高校生カフェ「Re Youth」の設立に向けた挑戦～

五所川原市 おいでよ！春夏秋冬ごしょがわら

野辺地町 素晴らしき四季 ～魅力あふれる野辺地町～

※発表順

<審査結果>

ストーリー特別賞：つがる市、大鰯町、三戸町、階上町

プレゼン技能特別賞：青森市、五所川原市、三沢市、東通村

地域愛特別賞：平内町、黒石市、野辺地町、むつ市

＜審査委員＞

みちのく銀行地域創生部 参与 神 重則

つるた街プロジェクト 代表 岡 詩子

弘前路地裏探偵団 団長 鹿田 智崇

特定非営利活動法人 十和田NPO子どもセンター・ハピたの 代表理事 中沢 洋子

イカす大畑カダル団 理事 桜田 真佐

まちぐみ 組長 山本 耕一郎

(3)情報発信と活用

ア 活動事例集の作成・配付

○内容：12市町村実行委員会の事業実施報告、事業概要、平成30年度中間発表会の報告、令和元年度プレゼン大会の報告、情報発信の案内

イ プレゼンテーションコンテンツ「地域のお宝物語」及びドキュメンタリームービーの公開

【成果と課題】

各市町村実行委員会において、高校生が中心となって地域の食や歴史、伝統芸能、観光資源などに焦点をあてながら体験的な学びを展開し、平成30年度に企画した内容の実践活動にそれぞれ取り組み、プレゼン大会では、高校生が自分たちの住むまちの魅力を紹介するストーリー「地域のお宝物語」が披露された。事業に参加した高校生からは、「身近すぎて気づけなかった地元の良さを知ることができた」「自分たちのアイデアが形になっていくのが楽しかった」「自分で考えて動くことや、人前で意見を言う力が身についた」といった感想が寄せられた。今後は、活動事例集及び各実行委員会のプレゼンテーションコンテンツ「地域のお宝物語」、ドキュメンタリームービーを活用して事業成果を広く発信し、地域活動を通じた人財育成の普及・啓発を図っていく。

社会教育を核とする地域ネットワーク活用促進事業 1,871千円

【事業目的及び概要】

様々な立場から社会教育活動を支援していく人財を育成し、地域の活性化を図るため、市町村の社会教育主事等が中心となり、首長部局、企業・民間団体等の地域ネットワークを活用した事業の企画・実践を支援するとともに、地元企業等と学校のネットワーク会議等を実施する事業である。

【事業内容及び結果】

(1)地域課題の解決【2地区 主管：関係教育事務所】

社会教育主事が中心となり、首長部局(まちづくり、地域づくり担当部局)、NPO団体、地域づくり団体等とともに、多面的な視点で、地域に関わる課題を解決したり、地域の良さを生かしたりするための事業を企画・実践した。

ア 三八地区(新郷村)

＜事業の企画①＞

○期日：7/12(金) ○会場：さぼーる(新郷村) ○参加者：14名

○内容：本事業の説明、地域課題についての話し合い

＜事業の企画②＞

○期日：10/16(水) ○会場：新郷村都市農村交流センター ○参加者：12名

○内容：地域おこしに起因する活動の実施についての話し合い

＜事業の企画③＞

○期日：1/25(土) ○会場：さぼーる(新郷村) ○参加者：8名

○内容：地域課題と今後の活動についての話し合い

＜事業の実践①＞

○期日：11/23(土) ○会場：新郷村西越地区から三戸町松原公園 ○参加者数：約19名

○内容：クリーンウォークの開催(ゴミ拾い活動)

＜事業の実践②＞

○期日：2/8(土) ○会場：VIVA LA VIDA(五戸町) ○参加者数：15名

○内容：おいらせ青年団との交流及び意見交換会

イ 中南地区(平川市)

＜事業の企画①＞

○期日：6/26(水) ○会場：平川市文化センター ○参加者数：9名

○内容：本事業の説明、目的の共有、委員会の顔合わせ 他

<事業の企画②>

○期日：10/17(木) ○会場：平川市文化センター ○参加者数：9名

○内容：企画事業についての打合せ 他

<事業の実践①>

○期日：11/16(土) ○会場：平川市文化センター ○参加者数：8名

○内容：リンゴを使った新商品開発のためのグループワークショップ、試作準備

<事業の実践②>

○期日：11/30(土) ○会場：平川市文化センター ○参加者数：8名

○内容：試作練習、実食プレゼン会

<事業の実践③>

○期日：12/22(日) ○会場：道の駅いかりがせき ○参加者数：9名

○内容：道の駅いかりがせきにおいて、採用された新商品のPR

(2) キャリア教育の推進【青森県教育支援プラットフォーム各地区実行委員会への事業委託】

ア 地元企業と学校のネットワーク会議の開催

学校と企業等の関係者がお互いに「顔の見える関係」を築き、地域における未来をつくる人財像を共有するため、各地区においてネットワーク会議を開催し、学校が求める支援の内容や企業が求めている支援内容をマッチングすることを目的に、アドバイザーによるコーディネートのもと、意見・情報交換を行った。

<東青地区>

○日時：12/25(水)14:00～15:30 ○場所：県総合社会教育センター ○参加者：24名

○内容：講話・グループ協議

○講師：特定非営利活動法人プラットフォームあおもり 理事長 米田 大吉

<西北地区>

○日時：11/20(水)10:55～15:20 ○場所：県立五所川原農林高等学校 ○参加者：170名

○内容：講話・グループ協議

○講師：弘前大学人文社会科学部 教授 李 永俊

<中南地区>

○日時：9/3(火)14:00～16:30 ○場所：弘前プラザホテル ○参加者：62名

○内容：講話・ワークショップ

○講師：津軽保健生活協同組合健生クリニック 臨床心理士 大塚 成仁

<上北地区> ※新型コロナウイルス感染症対策のため開催中止

○日時：2/27(木)14:00～16:30 ○場所：三沢航空科学館

○内容：講話・ワークショップ

○講師：株式会社八戸学院グループ 代表取締役 大谷 真樹

青森中央学院大学 准教授 佐藤 淳

<下北地区>

○日時：7/11(木)15:00～17:00 ○場所：むつグランドホテル ○参加者：46名

○内容：講話・意見交換

○講師：株式会社0172 代表取締役 井上 信平

<三八地区>

○日時：8/27(火)14:20～15:30 ○場所：八戸プラザホテル ○参加者：65名

○内容：地元企業5社によるプレゼンテーション・意見交換

イ 模擬授業等の開催

各地区実行委員会の教育支援活動推進員がコーディネートを行い、企業・NPO等が実施している教育支援活動(出前授業・インターンシップ・体験活動等)の具体的な取組を紹介するため、教職員や地域学校協働本部関係者等を対象とした、企業等による教育支援見本市や模擬授業等を行った。

<東青地区>

・大野小学校放課後子ども教室「ゆめっこ教室」

○日時：9/7(土)10:00～12:00 ○場所：青森市立大野小学校 ○参加者：児童32名

○講師：オキダテ薬局 美容部

・教育支援見本市

○日時：1/10(金)15:45～16:30 ○場所：県総合社会教育センター ○参加者：25名

○出展数：12社

< 西北地区 >

- ・教育支援見本市 ※地元企業と学校のネットワーク会議と同日開催
○日時：11/20(水)13:10～13:40 ○場所：県立五所川原農林高等学校 ○参加者：170名
○出展数：10社

< 中南地区 >

- ・教育支援見本市
○日時：8/7(水)11:45～13:30 ○場所：弘前市総合学習センター ○参加者：100名
○出展数：16社

< 上北地区 >

- ・三沢市立岡三沢小学校「津軽塗体験学習」
○期日：6/21(金)、7/5(金) ○場所：三沢市立岡三沢小学校
- ・教育支援見本市
○期間：常設展示 ○場所：三沢市立図書館、おいらせ町みなくる館・町民交流センター

< 下北地区 >

- ・小学生対象の職業体験学習「ユメココ教室」
○期間：6月～12月
○開催校：第一田名部小学校、大間小学校、正津川小学校、大平小学校、大畑小学校、東通小学校

< 三八地区 >

- ・コナチュウ 未来への架け橋講座～ふるさとで働くプロフェッショナル(仕事人)から学ぶ～
○期間：9月～2月(全6回開催) ○場所：八戸市立小中野中学校
- ・教育支援見本市
○日時：1/31(金)12:20～13:20 ○場所：八戸市総合教育センター ○参加者：30名
○出展数：12社

[成果と課題]

社会教育主事が中心となり、地域に関わる課題を解決したり、地域の良さを生かしたりするための事業を企画・実践することにより、社会教育主事の資質向上と地域の人財育成が図られた。また、域内の地域づくり団体・青年団等が、地域課題の解決や地域の活性化を図る事業を実践することにより、課題解決能力の向上が図られた。

今後も、地域課題を解決したり、地域の良さを生かしたりするための事業を企画・実践し、課題解決能力の向上を図るとともに、持続的な組織運営に向けた支援を続ける必要がある。また、社会教育主事等が地域づくり団体・青年団等とともに、地域課題解決の方策について、多面的な視点で話し合い、事業を企画・実践することをとおして、地域人財の育成と地域の活性化への指導・助言を行うことが重要である。

地元企業と学校のネットワーク会議は、各地区実行委員会がキャリア教育を推進するにあたり直面している課題等を主題として設定し、その課題解決に向けた講演内容や講師の選定、会議の実施形式等に趣向を凝らして行われた。中南・下北・三八地区では、昨年度に引き続き、青森県高等学校長協会及び青森県若年者就職支援センター(ジョブカフェあおもり)主催の会議と併催する形で行われ、多くの学校関係者、地元企業、商工団体、行政関係者等が列席した。また、西北地区では、高等学校の体育館を会場とし、教育支援見本市と併催で行うなど、高校生・大学生・企業・行政関係者による活発な意見・情報交換の機会となった。一方、三八地区では、講師として地元企業5社の若手社員を招き、地元就職のきっかけや、そのメリット・デメリット等について、自身の体験に基づくプレゼンテーションを行い、若者の地元就職及び定着を図る方策を探った。

模擬授業等は、東青地区では小学校放課後子ども教室「ゆめっこ教室」、上北地区では小学校「津軽塗体験学習」、下北地区では小学生対象職業体験学習「ユメココ教室」、三八地区実行委員会が八戸市立小中野中学校と共催する「コナチュウ 未来への架け橋講座～ふるさとで働くプロフェッショナル(仕事人)から学ぶ～」が昨年度に引き続き実施されるなど、地域の小学校と企業等、そして各地区実行委員会との連携・協力体制がしっかりと各地域に根付き、構築されていることが実感できた。このほか、中南・三八地区では、教育支援見本市を地区の教職員研修会と同日・同会場で開催することにより、多くの教職員に地元企業等が実施している教育支援活動の具体的な取組等を紹介でき、教職員と企業等との意見・情報交換を行う機会となった。

このように、各地区実行委員会の事業内容は、様々な趣向や特色があることから、6地区実行委員会

間の連携・協力体制をより一層強化し、他地区実行委員会主催のネットワーク会議等への積極的な参加を促し、各地区実行委員会のキャリア教育推進に係る既存事業の改善・発展につなげていく必要がある。

子どもの読書活動推進事業 2,296千円

【事業目的及び概要】

「青森県子ども読書活動推進計画(第三次)」に基づき、読書に親しみ自主的に読書活動をする子どもたちを育成するため、子どもが読書に親しむ機会の充実、環境の整備・充実、理解と関心の普及・啓発を進める取組を展開する事業である。

【事業内容及び結果】

(1)あおもりの中学生・高校生による『大切なあなたへ薦める青春の一冊』

中学生・高校生の読書意欲の向上を図り、自主的な読書活動を促すため、県内の中学生・高校生を対象に仲間や友だちなどに薦めたい一冊の本の紹介文を募集し、優秀作品を表彰した。

また、優秀作品集(紹介文集)を76,000部、優秀作品周知ポスターを420部作成し、中学校、高等学校(特別支援学校中等部及び高等部を含む)、図書館等に配布した。

○募集期間：7/1(月)～9/17(火)

○応募数：4,789点(中学生の部：21校864点、高校生の部：23校3,925点)

○優秀作品受賞者一覧

<中学生の部>

最優秀賞	青森市立浦町中学校1年 水尻 篤宏 「大村智ものがたり 苦しい道こそ楽しい人生」(馬場 錬成/著)
優 秀 賞	青森市立北中学校3年 奥谷 来 「しなくていいがまん」(小林 麻耶/著) 県立青森聾学校中学部3年 北畠 慎太郎 「手紙屋」(喜多川 泰/著) 八戸市立是川中学校3年 田口 美咲 「ナミヤ雑貨店の奇蹟」(東野 圭吾/著) 五戸町立五戸中学校2年 高橋 勇偉 「あっ!命の授業」(ゴルゴ松本/著) 五戸町立倉石中学校1年 大沢 智瑛 「変身」 (フランツ・カフカ/著 高橋 義孝/訳)

<高校生の部>

最優秀賞	県立青森西高等学校2年 小笠原 早紀 「十歳のきみへ—九十五歳のわたしから」(日野原 重明/著)
優 秀 賞	県立青森高等学校2年 澤田 佳奈 「落ちこぼれてエベレスト」(野口 健/著) 県立六戸高等学校3年 佐藤 実桜 「響け!ユーフォニアム 北宇治高校吹奏楽部、波乱の第二楽章」(武田 綾乃/著) 県立三本木農業高等学校2年 牟田 柊香 「星の王子さま」(アントワーヌ・ド・サンテグジュペリ/著 池澤 夏樹/訳) 県立八戸商業高等学校3年 鈴木 瑞帆 「響け!ユーフォニアム 北宇治高校吹奏楽部へようこそ」(武田 綾乃/著) 県立八戸商業高等学校3年 田名部 きらり 「青い鳥」(重松 清/著)

(2)子どもの読書活動推進大会

子どもの読書活動に係る関係者が情報の共有を図り、子どもの読書活動の推進方策を探るために、子どもの読書活動推進大会を開催した。

○日時：12/14(土) 13:00～16:00 ○場所：弘前市民文化交流館ホール ○参加者数：109名

○内容

・講演「本によって 世界にふれる」 講師 作家 あさの あつこ

※高校生4名とのトークセッション

・令和元年度「あおもりの中学生・高校生による『大切なあなたへ薦める青春の一冊』表彰式

・「私のお薦めの一冊」

令和元年度「あおもりの中学生・高校生による『大切なあなたへ薦める青春の一冊』中学生及び高校生の部の最優秀賞及び優秀賞受賞者による本の紹介(10名の発表)

(3)青森県子ども読書活動推進計画

青森県子ども読書活動推進協議会の意見を踏まえ、青森県子ども読書活動推進計画(第四次)を令和2年2月に策定した。400部作成し、各都道府県や関係機関に配布した。

- 青森県子ども読書活動推進協議会の開催
 - ・推進協議会を4回開催(7/23、8/29、10/21、12/20)
 - ・専門委員会を4回開催(8/5、9/13、10/21、12/11)
- あおもり県民政策提案(パブリック・コメント)の実施
- ホームページに掲載

[成果と課題]

「あおもりの中学生・高校生による『大切なあなたへ薦める青春の一冊』」は、応募する学校で校内審査を行い、出品点数を各校30点以内とした。学校の担当教師からは「限られた字数で紹介文を書くということは、簡単なようで難しく、表現力や思考力を高めるよい機会となった」との感想をいただいた。優秀作品集については、公立図書館や書店商業組合と連携し、特設コーナーを設置してもらうなど、その活用に取り組んでいる。中学生・高校生の読書意欲向上につなげるため、今後もあらゆる機会を通して広く周知する必要がある。

子どもの読書活動推進大会では、講演講師と高校生とのトークセッション形式で講演を行った。参加者からは、「講師の魅力的な人柄と高校生のコミュニケーション能力の高さがわかり、とても楽しかった」との意見をいただいた。

また、「あおもりの中学生・高校生による『大切なあなたへ薦める青春の一冊』」コンクールの表彰式と最優秀賞及び優秀賞を受賞した生徒による本の紹介を行い、子どもの読書活動推進に係る関係者に本事業の一環である取組を周知した。

今後は「青森県子ども読書活動推進計画(第四次)」で示している本県の課題(不読率の改善等)に対応した取組を進めていく必要がある。

いじめ防止キャンペーン推進事業 7,517千円

[事業目的及び概要]

いじめ問題への理解と認識を深めるため、いじめ防止を内容とした標語を募集し、その優秀作品をテレビを通じて視聴者へ語りかけることにより、広く県民のいじめ防止に向けた意識の啓発を行う事業である。

[事業内容及び結果]

(1)いじめ防止標語コンクール

小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校に在籍する児童生徒並びに一般県民に、いじめ防止を訴える標語を募集し、優秀賞6点、審査員特別賞3点を選定、表彰した。

○募集期間：6/10(月)～8/28(水)

○応募数：9,204点(小学校5,249点、中学校3,093点、高等学校774点、特別支援学校87点、一般1点)

○優秀賞受賞作品

優秀賞	助けたい 心の声から 行動へ 変わるんだ ボクラの未来 いじめゼロ	青森市立佃中学校 3年 三上 優空 五所川原市立東峰小学校
	我慢だめ！ 助け求める 声上げて！ ね！遊ぼう！ わたしがいるよ 1人じゃない	柴田学園高等学校 1年 葛西 健太郎 七戸町立天間林小学校
	やめようよ その一言が 第一歩 「どうしたの」 親から子への 命づな	むつ市立川内小学校 4年 向中野 未妃 階上町立道仏中学校 2年 松尾 叶 松村 大輝
審査員特別賞	考えよう 自分が言われて どう思う	県立青森第二高等養護学校 1年 高野 花萌
	うつむいた あの子に今日は こんにちは	県立三沢商業高等学校 2年 今井 未彩
	わる口を 言わない心に 金メダル	八戸市立江陽小学校 3年 下沢 京

(2)テレビCMの制作・放送

ア 平成30年度制作「いじめ防止標語テレビCM」を県内民放3局で放送(4/4～4/9、5/2～5/9、1/10～1/28)。

イ 平成30年度制作「いじめ防止キャンペーンテレビCM」を県内民放3局で放送。(8/21～9/3、1/10～1/28)。

ウ 令和元年度いじめ防止標語コンクール優秀賞作品を活用したテレビCMを制作。県内民放3局で放送(3/23~3/25)。

[成果と課題]

いじめ防止標語コンクールでは、学校からの標語の応募数が年々増加しており、各学校において応募した標語を教育活動等にも活用していることから、学校におけるいじめ防止に向けた意識啓発につながる取組となっている。また、CM放送では、取組を周知することにより、いじめ防止に向けた県民の意識の高揚につなげることができた。

今後も、標語コンクールを実施し、優秀作品を原案としてメッセージ性の高いCMを制作することで、子どもたちをはじめ広く県民のいじめ防止に向けた意識の啓発を図っていく。

特別支援学校における家庭教育支援事業 684千円

[事業目的及び概要]

障害のある児童生徒の保護者等が、子どもの健やかな成長のために、障害のある児童生徒の心理や行動について理解を深め、家庭における教育や卒業後の就労などについて必要な知識を習得するとともに、同じ悩みを持つ保護者同士の交流や地域住民との交流を深める機会を提供する事業である。

[事業内容及び結果]

開設校	回数	時間	参加者数	主な内容
青森第一養護学校	5	13	50	パン作り教室、ポンポンツリー作り、東青地区合同研修会(パラリンピック競技種目体験)、保護者施設見学、講話(腰痛・腱鞘炎を防ぐ抱き方、子どもの安全な抱き方)
青森第二養護学校	4	9	69	テーブルマナー教室、こぎん刺し教室、生け花教室、先輩保護者講話
青森若葉養護学校	3	6	30	施設見学、マスコット作り、苔玉作り
青森第一高等養護学校	6	17.5	79	エコクラフト教室、運動会参加、福祉に関する勉強会、学校祭参加、トールペイント教室、クラフト教室
青森第二高等養護学校	4	8	107	環境整備、会員交流、学校祭参加
県立盲学校	6	16	51	運動会参加、通学路清掃活動、学校祭参加、東青地区合同研修会(パラリンピック競技種目体験)、進路講演会聴講、点字ブロック理解啓発活動
青森聾学校	7	13	65	運動会グラウンド整備、昼食交流会、家族レクリエーション、東青地区合同研修会(パラリンピック競技種目体験)、学校祭模擬店の協力、三校合同研修会(水引体験)
浪岡養護学校	6	15	106	運動会参加、研修旅行、特P連津軽地区PTA研修会参加、学校祭参加、調理活動
弘前第一養護学校	2	8	53	施設見学会及び親睦会、学校ぞうきん作り、給食試食会
弘前第二養護学校	8	20	101	運動会参加、保護者研修会(体験活動)、親子レクリエーション、弘前地区合同研修会(プリザーブドフラワー)、保護者施設見学会、学校祭鑑賞、クリスマス会参加
弘前聾学校	5	13	169	手話学習会、なかまの集い、弘前地区合同研修会(プリザーブドフラワー)、昼食交流会運営、進路懇話会、給食試食会
八戸第一養護学校	4	9	44	学校給食試食会、クラフトバンド小物作り、二北三八地区合同研修会(衣服を通して知る異文化)、特P連二北三八地区PTA研修会参加
八戸第二養護学校	4	8	103	情報交換会、体験学習会(エコクラフト教室)、防災学習会、進路学習会

八戸盲学校	5	8	45	装飾作り・環境美化、進路学習会(福祉事業所見学)、スマホ・携帯安全教室、親子体験学習(もの作り、伝承文化活動)
八戸聾学校	4	11	82	運動会装飾、運動会参加、手話学習、パンケーキ作り、学習発表会装飾・清掃
森田養護学校	4	18	66	防災学習、体験学習、お菓子作り体験、学校祭参加
黒石養護学校	3	5	54	運動会参加に向けた練習、学校祭「お楽しみコーナー」運営、コサージュ作り
七戸養護学校	5	16	59	施設見学会、法制度研修会、性教育研修会、特P連二北三八地区PTA研修会参加、手打ちそば作り講習会
むつ養護学校	4	12	263	スポーツレクリエーション、レクリエーション教室、父母学習会(防災)、特P連二北三八地区PTA研修会参加
八戸高等支援学校	2	10	72	進路学習会、研修(工場見学、裂き織体験)
合計	延べ回数 91 回 延べ時間 235.5 時間 参加者数合計 1,668 名			

〔成果と課題〕

同じ立場の保護者同士が、家庭教育学級の様々な活動を通して交流を深め、情報共有や情報交換をする機会となっている。また、子どもの進路や就労、卒業までに身につけさせておきたい力などについて、先輩の保護者のアドバイスを受け、学べる好機となっている。課題としては、生徒の居住地が県全体であり、参加する保護者が交通事情などから固定化しているなどの状況がある。今後も、より多くの保護者の参加が得られるような企画・内容等を検討し、工夫していく必要がある。

子どもたちの成長を支える「地域のチカラ結集」推進事業 5,374千円

〔事業目的及び概要〕

地域学校協働活動の促進及び地域での家庭教育支援の充実を図ることを目的として、地域学校協働活動に係る教職員研修、地域学校協働活動推進員等の養成及び地域学校協働本部未設置の市町村に対して、立ち上げのための講師派遣を行うとともに、学校と家庭教育支援団体等との連携・協働のモデル地域における実践活動及びハンドブックの作成等を行う事業である。

〔事業内容及び結果〕

【取組1】地域のチカラで支える地域学校協働活動の促進

(1) 地域学校協働活動の推進に係る研修の実施

ア 学校と地域を結ぶ窓口となる教職員研修【主管：県生涯学習課】

地域学校協働活動の理解と今後の地域と学校の連携・協働について、小・中学校教職員の理解を図るための研修会を開催した。

地区	期 日	場 所	参加者数
東青	8/ 9(金)	県総合社会教育センター	82名
西北	8/30(金)	五所川原市中央公民館	55名
中南	8/ 7(水)	弘前市総合学習センター	86名
上北	7/25(木)	公立小川原湖青年の家	82名
下北	8/19(月)	大間町総合開発センター	33名
三八	7/ 5(金)	南部町総合保健福祉センターゆとりあ	99名

○講師

東青・中南地区 秋田県生涯学習センター 主幹兼班長 皆川 雅仁

三八・西北地区 国立教育政策研究所生涯学習政策部 総括研究官 志々田 まなみ

上北地区 NPO 法人みんなのコード 指導者養成主任講師 福田 晴一

下北地区 岩手県立大槌高等学校カリキュラム開発等専門家 菅野 祐太

イ 地域学校協働活動推進員等養成講座(主管：各教育事務所)

地域学校協働活動の推進のため、地域学校協働活動推進員等(コーディネーター)が未設置の小学校区における地域学校協働活動推進員等を養成する講座を開催した。

地区	期 日	場 所	参加者数
東青	7/24(水)	平内町山村開発センター	82名
西北	9/10(火)	五所川原市中央公民館	26名
中南	7/16(火)	弘前市中央公民館相馬館長慶閣	70名
上北	7/25(木)	七戸中央公民館	30名
下北	8/27(火)	むつ来さまい館	29名
三八	9/11(金)	八戸市福祉公民館	43名

○講師

東青・下北・上北地区 特定非営利活動法人まなびのたねネットワーク
代表理事 伊勢 みゆき
西北・中南・三八地区 特定非営利活動法人まちと学校のみらい
代表理事 竹原 和泉

ウ 「地域のチカラ結集」合同ワークショップの実施【主管：県生涯学習課】

地域学校協働活動関係者が一堂に会してワークショップを行うことにより、関係者の資質向上とネットワークを形成を図った。

地区	期 日	場 所	参加者数
東青	1/10(金)	県総合社会教育センター	28名
西北	12/24(火)	五所川原市中央公民館	34名
中南	1/ 9(木)	青森県武道館	15名
上北	11/11(月)	七戸中央公民館	26名
下北	12/25(水)	むつ来さまい館	25名
三八	11/18(月)	八戸市スポーツ研修センター	78名

○講師

東青・中南地区 一般社団法人みたかSCサポートネット
代表理事 四柳 千夏子
上北・三八地区 小平市学校支援コーディネーターネットワーク
会長 布 昭子
西北・下北地区 特定非営利活動法人スクールアドバイザーネットワーク
事務局長 井上 尚子

(2) 地域学校協働本部の立ち上げに係る市町村への支援

地域学校協働本部の設置に至っていない市町村に対して、本部立ち上げに向けた課題解決やノウハウの指導・助言を行った。

【取組2】地域のチカラで家庭を支える新たな連携・協働の促進

(1) モデル地域における取組の実践

県内6市町村に実行委員会を設置し、委託により学校と家庭教育支援団体、健康福祉機関等の連携・協働実践モデルの構築に取り組んだ。

	市町村名	実行委員会・構成	主な活動
1	青森市	委員長 長尾 慶子 (NPO法人いのちの教育ネットワーク代表) スクールカウンセラー、短期大学講師、CSディレクター、教育委員会職員等計8名	中学校の文化祭において、青森市家庭教育支援チームの活動報告、講座紹介や情報提供のパネル展示を行い、家庭教育の役割や重要性について周知した。 地域住民や小・中学生等が地域のこれからのを考えるワークショップ「みんなの学校」において、実行委員がファシリテーターを務めながら、一緒になって地域のこれからの考え、交流を深めた。
2	今別町	委員長 中嶋 正文 (今別町中央公民館館長) 主任児童委員、こども園園長、小学校教頭、教育委員会職員等 計8名	保護者同士のコミュニティを形成することと子育てに関する悩みを気軽に相談できる環境づくりをねらいとして、集いの場である「ホットケーキサロン」を毎月1回開催した。 保護者が、子どもの発達段階に応じて適切に関わる力を身に付けること、子どものコミュニケーション能力の向上等をねらいとして、「児童期子育て講座」、「プレーパーク」等を実施した。

3	鯉ヶ沢町	委員長 渋谷 貴子 (鯉ヶ沢町家庭教育支援チーム代表) 地域学校協働活動推進委員、主任児童委員、教育委員会職員等 計6名	学校の参観日に、空き教室を活用し、保護者の育児相談や家庭教育に関する情報交換の場を提供した。 学校と連携・協働して家庭教育講演会を開催し、家庭でのキャリア教育や家庭教育の支援を図った。 木製玩具で存分に遊ぶことができる「木育広場」を開催し、子どもや保護者、地域住民等による、多世代間の交流を図った。
4	野辺地町	委員長 前田 智子 (ち〜む野open代表) 小学校教頭、社会福祉士会理事、小学校PTA会長、町議会議員、教育委員会職員等 計8名	地域住民と学校の交流の定着化を図るとともに、地域全体で家庭を支える仕組みづくりを目指し、小学校において地域と学校の交流事業(花壇整備、ジャガイモ等の作付け、収穫等)を実施した。 小学校との協働により交流事業を実施したことで、地域と学校との結びつきが強まるとともに、地域住民と子どもたち、地域と家庭との距離が大きく縮まった。
5	佐井村	委員長 内田 美和子 (長後地区公民館館長) 子ども会育成会、小学校校長、小学校PTA、教育委員会職員等 計8名	児童と保護者、地域住民のつながりを強化することをねらいとして、「クリスマス会」を実施した。ここでは、保護者が子育てに関する疑問や悩みを実行委員や地域住民に気軽に話せる場も設定した。 小学校と連携しながら、参観日に空き教室を利用して、保護者が気軽に家庭教育に関する相談や情報交換できる場を提供した。
6	八戸市	委員長 中村 和貴子 (八戸市城北家庭教育支援チーム代表) 小学校校長、教育委員会職員、小学校PTA会長、主任児童委員、スクールソーシャルワーカー等 計8名	小学校での参観日やバザーの際、保護者が気兼ねなく行事に参加できるように、校内で乳幼児の預かり保育を実施した。ここでは、実行委員が保護者の家庭教育に関する相談にも応じた。 毎週火曜日、城北小学校内家庭教育支援チーム室において、保護者からの子育てに関する悩みなどの相談に応じた。

(2) モデル実践を基にしたハンドブックの作成

県生涯学習課を事務局とする作成委員会を組織し、市町村が主体となって学校と家庭教育支援団体等との連携・協働した体制づくりができるよう、モデル地域における取組の実践及びスタートアップ研修会で紹介した県外の事例等を含めたハンドブックを作成した。

【成果と課題】

地域学校協働活動及び地域学校協働本部設置を推進するため、県内6地区において3つの研修会を開催した。研修をとおして、学校と地域の連携・協働の必要性や、学校と地域をつなぐコーディネーターの養成及び関係者のスキルアップ、学校と地域住民によるネットワーク形成など、地域学校協働活動の更なる推進を図ることができた。今後は、地域学校協働本部未設置の市町村に対し、本部のモデルを示しながら、更なる本部の設置を進めていく。

モデル地域における取組の実践では、実行委員会による活動を通して、家庭教育や子育てについての不安や悩みを保護者が身近な支援者等に相談する場づくりや保護者と地域住民等との信頼関係づくりがなされた。一方、悩みや課題を抱えた保護者が自ら交流の場や相談の場に足を運ぶことは難しいと考えられることから、家庭教育支援団体が家庭を訪問し、相談活動や情報提供など、保護者への支援を通じて子どもの育ちを支えていく体制を整えることが今後の課題となる。また、個別の事例について、家庭教育支援団体、教職員、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、健康福祉機関等が同じテーブルに着き、ケース会議により情報交換し対応を検討するなど、これまでよりも踏み込んだ体制を構築していく必要がある。

地域学校協働活動推進事業(県事業) 2,054千円

【事業目的及び概要】

地域全体で未来を担う子どもたちの成長を支え、地域を創生する地域学校協働活動を推進することを目的として、より多くの地域住民等の参画による多様な活動を継続的・安定的に実施する体制づくりを支援する事業である。

【事業内容及び結果】

(1) 地域学校協働活動推進委員会の開催

県内の地域学校協働活動の推進について、総合的な在り方の検討を行うとともに、各市町村の放課後子ども総合プラン推進の支援のため、放課後対策の諸問題について協議した。

ア 地域学校協働活動推進委員会の開催

- ・日時 11/21(木)14:15～16:30
- ・場所 県庁南棟5階教育委員会室
- ・委員

No.	氏名	所属等	備考
1	松本 大	弘前大学教育学部 准教授	会長
2	小川 あゆみ	八戸学院大学短期大学部 幼児保育科 准教授	副会長
3	繁在家 康文	横浜町立横浜小学校 校長	
4	石岡 篤実	青森市立浦町中学校 校長	
5	外崎 浩司	青森県PTA連合会 会長	
6	伊藤 尚三	青森市立金沢小学校 放課後子ども教室コーディネーター	
7	春藤 千秋	むつ市立大湊小学校 放課後子ども教室コーディネーター	
8	ニッ森 孝子	板柳町地域学校協働本部コーディネーター	
9	森 岩樹	青森県教育支援プラットフォーム中南地区実行委員会委員長	
10	七條 いつ子	城北家庭教育支援チーム サポーター	
11	山下 晃司	鶴田町教育委員会 社会教育班長	
12	坂本 和康	六戸町教育委員会 学校教育指導室長	
13	木元 剛	中泊町福祉課 課長	
14	栗生 美智子	三戸中央児童館 主任児童厚生員	
15	小笠原 芳征	平賀あすなろ保育園 放課後児童支援員	

イ 放課後子ども総合プラン市町村担当者連絡会議

- ・日時：11/13(水)13:30～15:30
- ・場所：県総合社会教育センター 第1研修室
- ・参加者：市町村放課後子ども総合プラン担当者(社会教育主管課及び福祉部局)

(2) 研修会の実施

ア 地域学校協働活動推進員等研修(主管:県総合社会教育センター)

地域学校協働活動推進員等の資質向上を図るとともに、他の事業関係者との情報交換・情報共有を図った。

- ・参加人数：つがる会場 110名 南部会場 55名 計 165名
- ・内容等

日時及び会場：6/6(木)10:30～15:00 県総合社会教育センター(つがる会場)

6/7(金)10:30～15:00 七戸中央公民館(南部会場)

対象：地域学校協働活動推進員、放課後子ども教室コーディネーター及び地域学校協働活動本部のコーディネーター等(以下、地域学校協働活動推進員等)

内容：講義・演習「放課後の子どもの育ちを支えることとは」

講師 特定非営利活動法人 スクール・アドバイス・ネットワーク

事務局長 井上 尚子

イ 放課後子ども総合プラン指導員等研修(主管:各教育事務所)

放課後対策事業等に関わる地域人財を対象に、学習・体験活動等の企画・実施方策、安全管理方策等の資質向上を図るための講義や、他の事業関係者等との情報交換・情報共有を図るため、合同の研修会を開催した。

- ・参加人数：計 1,474 名
- ・対象：地域学校協働活動推進員等、教育活動推進員及び教育活動サポーター、放課後児童指導員等、土曜学習推進員及び土曜学習サポーター等

東青	前期	【開催日】 6/13(木) 【会場】 県総合社会教育センター 【参加人数】 213 人 【内容】 講義「特別な支援を要する子どもへの関わり方」 青森県発達障害者支援センター「D o o r s」 センター長 分枝 篤史
	後期	【開催日】 9/19(木) 【会場】 県総合社会教育センター 【参加人数】 183 人 【内容】 講義「子どもや保護者とよりよい関係を築くために」 青森県立保健大学 健康科学部 看護学科 教授 川内 規会
西北	前期	【開催日】 6/ 7(金) 【会場】 つがる市柏ふるさと交流センター 【参加人数】 116 人 【内容】 実技研修「子どもたちが夢中になる工作～準備の手間と時間をかけずにできる 工作の紹介～」 青森県立三沢航空科学館 職員
	後期	【開催日】 10/ 3(木) 【会場】 つがる市柏ふるさと交流センター 【参加人数】 119 人 【内容】 講義・演習「子どもの遊びと育ちを考える」～いのちを育むということ～ハピ たのの实践から 特定非営利活動法人 十和田NPO子どもセンター・ハピたの 代表理事 中沢 洋子
中南	前期	【開催日】 7/ 2(火) 【会場】 弘前市中央公民館相馬館長慶閣 【参加人数】 76 人 【内容】 講義・演習「身近なものを使ったかんたん遊び」 ひろさきレクリエーション協会 理事長 小関 潤子
	後期	【開催日】 9/10(火) 【会場】 弘前市中央公民館相馬館長慶閣 【参加人数】 94 人 【内容】 講義・演習「子どもに起こりやすい怪我や事故への手当てと予防」 日本赤十字社青森支部 組織振興課 会員係長 大石 敦史 主 事 小笠原 麻美
上北	前期	【開催日】 6/11(火) 【会場】 七戸町屋内スポーツセンター 【参加人数】 135 人 【内容】 実技研修「子どもの主体性と課題解決能力を育てるコミュニケーション技術」 総合型地域スポーツクラブ 特定非営利活動法人スポネット弘前 理事長 弘前医療福祉大学 非常勤講師 鹿内 葵
	後期	【開催日】 10/1(火) 【会場】 公立小川原湖青年の家 【参加人数】 136 人 【内容】 講義・演習「子どもの遊びと育ちを考える」～いのちを育むということ～ハピ たのの实践から 特定非営利活動法人 十和田NPO子どもセンター・ハピたの 代表理事 中沢 洋子
下北	前期	【開催日】 6/11(火) 【会場】 むつ市中央公民館 【参加人数】 77 人 【内容】 講義「ひとりひとりの子どもの理解と学校・保護者との対応」～子どもと過ご す豊かな他後の時間～ 弘前大学 教育学部 特任教授 教職キャリア支援コーディネーター 齋藤 厚
	後期	【開催日】 10/16(水) 【会場】 むつ来さまい館 【参加人数】 81 人 【内容】 説明「放課後子ども総合プランの概要について」 演習「豊かな体験・活動プログラムについて」 青森県教育庁生涯学習課 職員
三八	前期	【開催日】 5/22(水) 【会場】 八戸市福祉公民館 【参加人数】 128 人 【内容】 講義・演習「子どもたちがもっといきいき・わくわくできる放課後をめざして ー放課後子ども総合プランの意義と指導員の役割ー」 弘前大学 生涯学習教育研究センター 講師 深作 拓郎

後 期	<p>【開催日】10/ 2(水) 【会場】八戸市福祉公民館 【参加人数】116人</p> <p>【内容】講義・演習「子ども達の突然の事故・ケガに対応するために」</p> <p style="text-align: right;">日本赤十字社青森支部 総務課長 兼 組織振興課長 兼 青少年ボランティア係長 吉川 靖之</p>
--------	---

ウ 地域学校協働活動コーディネーターアドバイザーの配置

県に地域学校協働活動に係るコーディネーターアドバイザーを配置し、市町村教委との連絡調整、地域学校協働活動の理解促進等を行った。

〔成果と課題〕

研修会には年間約1,600名を超える参加があり、地域学校協働活動推進員や指導員等からのニーズも高く、その資質向上に資する研修となっており、引き続き研修の継続が期待されている。国の新・放課後子ども総合プランの推進に向け、引き続き健康福祉部と連携しながら、市町村において円滑な取組促進が図られるよう支援していく必要がある。

放課後子ども教室推進事業費補助 60,525千円

〔事業目的及び概要〕

子どもたちが地域社会の中で、心豊かで健やかに育まれる環境づくりを推進することを目的として、放課後の子どもたちの安全・安心な居場所を設け、スポーツ・文化活動等の体験活動、地域住民と交流活動等の取組を実施する市町村に対し、また、子どもたちの土曜日等の教育活動を充実することを目的として、民間団体等の多様な経験や技能を持つ外部人材等の参画により、特色・魅力のある教育プログラムを実施する「外部人材を活用した教育支援活動」の取組を実施する市町村に対し、県が補助をする事業である。

〔事業内容及び結果〕

「放課後子ども教室」及び「外部人材を活用した教育支援活動」の取組を行う市町村(中核市の青森市及び八戸市を除く)に補助金を交付した。【国庫補助1/3、県補助1/3、市町村負担1/3】

- ・放課後子ども教室：23市町村86教室
 平内町 外ヶ浜町 今別町 深浦町 中泊町 鶴田町 弘前市 平川市 藤崎町 大鰐町
 十和田市 七戸町 おいらせ町 六戸町 横浜町 東北町 むつ市 大間町 風間浦村
 佐井村 三戸町 五戸町 階上町
- ・外部人材を活用した教育支援活動：3市町6箇所
 今別町 中泊町 弘前市

〔成果と課題〕

放課後子ども教室は、中核市の青森市と八戸市、中泊町の一部において単独費で実施している教室を含めると25市町村136教室が開設され、地域の特性を生かしたスポーツ・部員化活動等の体験活動、地域住民との交流等が実施されている。引き続き、市町村での円滑な取組促進が図られるよう、経費の一部を補助し、支援していく必要がある。

地域学校協働活動推進事業費補助 7,607千円

〔事業目的及び概要〕

幅広い地域住民等の参画により、地域と学校が連携・協働しながら地域全体で子どもの成長を支え、地域を創生する活動(地域学校協働活動)を推進することを目的として、地域学校協働活動に取り組む市町村に対し、県が補助をする事業である。

〔事業内容及び結果〕

地域学校協働活動及び今後の地域学校協働活動の契機となる学校支援活動等の取り組みを行う市町村(中核市の青森市及び八戸市を除く)に補助金を交付した。【国庫補助1/3、県補助1/3、市町村負担1/3】

- 9市町30本部(小学校32校、中学校12校)
 今別町 五所川原市 鱒ヶ沢町 中泊町 板柳町 平川市 三沢市 横浜町 五戸町

〔成果と課題〕

地域学校協働本部は、中核市の青森市と八戸市を含めると11市町116本部が設置され、地域学校協働活動が展開されている。

引き続き、市町村での地域学校協働活動の取組促進が図られるよう、経費の一部を補助し、支援していく必要がある。

あおもり家庭教育支援総合事業 2,791千円

【事業目的及び概要】

社会や家庭を取り巻く状況の変化に伴い、家庭教育が一層困難になっていることを踏まえ、全ての親が安心して家庭教育を行うために、今日的課題に対応した家庭教育の取組を推進するための協議を行い、地域全体で家庭教育を支援していく気運を高めるとともに、親の育ちを応援する学びの機会の充実や支援のネットワークづくり等を行う事業である。

【事業内容及び結果】

(1)親の学びを支援する「あおもり家庭教育アドバイザー」の派遣(主管：総合社会教育センター)

地域における家庭教育支援の活性化を図るため、「あおもり家庭教育アドバイザー」をPTA等の要請に応じて派遣した。

	実施日	実施機関	研修会等の名称 (参加者数)	学習プログラム	派遣 アドバイザー
1	7/4 (木)	いわさき小学校 PTA	いわさき小学校PTA 研修委員会主催講演会(31名)	「笑顔のママでいたいのに！～子育てのイライラとつきあう～」 (乳幼児・小学生編)	工藤 律子 渋谷 貴子
2	7/5 (金)	裾野小学校PTA	裾野小学校PTA 主催講演会(45名)	「笑顔のママでいたいのに！～子育てのイライラとつきあう～」 (乳幼児・小学生編)	工藤 貴子
3	7/11 (木)	中里中学校PTA	中里中学校PTA 成人講座(50名)	「思春期の子どもとどう関わる？ ～親子のつながり～」 (中・高校生編)	三上 奈々 千葉 敦子
4	7/16 (火)	県高等学校PTA 連合会東青地区 研修委員会	東青地区研修委員会 研修会(47名)	「親の背中を見せる～家庭でできる キャリア教育～」 (中・高校生編)	沼田 久美 三宅 万里子
5	11/14 (木)	蓬田村教育委員会	家庭教育講座 (21名)	「わが子の自立を願うなら～自分の ことは自分で～」 (乳幼児・小学生編)	松林 恵公子 濱端 祐子
6	12/22 (日)	家庭教育応援隊 (五戸町)	あおもり親楽プログラム《五戸町特別編》(8名)	「笑顔のママでいたいのに！～子育てのイライラとつきあう～」 (乳幼児・小学生編)	小宮 香
あおもり家庭教育アドバイザー派遣合計回数：6回					
		同	派遣人数：10名		
		同	派遣した研修会等の参加者数計：202名		

(2)読み聞かせの大切さを伝える「親子ふれあい読書アドバイザー」の養成

県読書団体連絡協議会への委託により、読み聞かせの効果や家庭での読み聞かせの大切さを伝える「親子ふれあい読書アドバイザー」の養成と、読み聞かせ実践者のスキルアップを図る研修会を県内6地区で開催し、合計246名が受講した。そのうち、「親子ふれあい読書アドバイザー」を新たに19名養成、登録した。(累計登録者数：481名)また、啓発小冊子「絵本でゆたかな親子の時間」の提供は18団体からの申込みがあり、3,745冊提供した。

地区	内容
東青	【期日】11/2(土)【会場】外ヶ浜町中央公民館【参加者数】31名【新規登録者数】2名 【内容】○親子ふれあい読書アドバイザー研修 講師：県読書団体連絡協議会理事 西村 恵美子 ○読み聞かせ研修会 テーマ：絵本「しろくまちゃんのほっとけーき」をつくってみよう 講師：おはなし☆し隊ぼっかぼか
西北	【期日】10/5(土)【会場】鶴田町国際交流会館【参加者数】30名【新規登録者数】2名 【内容】○親子ふれあい読書アドバイザー研修

	<p>講師：津軽地区読書推進運動連絡会 会長 今井 千都子</p> <p>○読み聞かせ研修会</p> <p>テーマ：実演「あらしのよるに」「津軽富士見湖物語」</p> <p>講師：鶴田町読み聞かせ支援隊 代表 成田 幸子 他3名</p>
中南	<p>【期日】10/17(木)【会場】平川市文化センター【参加者数】39名【新規登録者数】5名</p> <p>【内容】○親子ふれあい読書アドバイザー研修</p> <p>講師：弘前市おはなするんるん 代表 齋藤 真琴</p> <p>○読み聞かせ研修会</p> <p>テーマ：アナウンサーから学ぼう</p> <p>基本・声の出し方・朗読 ～自分のため・誰のため～</p> <p>講師：フリーアナウンサー 増田 由美子</p>
上北	<p>【期日】10/6(日)【会場】十和田市民文化センター【参加者数】32名【新規登録者数】3名</p> <p>【内容】○親子ふれあい読書アドバイザー研修</p> <p>講師：語りの会「こま草」 乙供 亮子 他1名</p> <p>○読み聞かせ研修会</p> <p>テーマ：ことば遊び～みんなでペープサートをつくりオノマトペで遊ぼう～</p> <p>講師：語りの会「こま草」 阿部 智留恵 他4名</p>
下北	<p>【期日】12/8(日)【会場】大間町北通り文化総合センター「ウイング」【参加者数】26名【新規登録者数】1名</p> <p>【内容】○親子ふれあい読書アドバイザー研修</p> <p>講師：親子ふれあい読書アドバイザー 越膳 昌子</p> <p>○読み聞かせ研修会</p> <p>テーマ：家庭での読み聞かせのアドバイス</p> <p>講師：親子ふれあい読書アドバイザー 越膳 昌子</p>
三八	<p>【期日】11/13(水)【会場】八戸市立根城公民館【参加者数】88名【新規登録者数】6名</p> <p>【内容】○親子ふれあい読書アドバイザー研修</p> <p>講師：J P I C読書アドバイザー 高嶋 敬子</p> <p>○読み聞かせ研修会</p> <p>テーマ：「季節に合った選書とアイウエオ絵本の木の活動について」</p> <p>講師：アイウエオ絵本の木 代表 大友 栄子</p>

(3)家庭教育応援フェスタの開催

地域が一体となって子どもたちを育むことについて学びを深める講演会、あおもり家庭教育アドバイザーによる「あおもり親楽プログラム」を活用した特別講座及び様々な家庭教育支援に関する情報提供を行うことにより、家庭教育についての理解と認識を深め、地域全体で家庭教育を支援する意義や必要性についての普及・啓発を行った。

○日時：11/4(月・祝)

○場所：八戸市立東公民館

○参加者数：60名

○内容

(ア) 講演「レモンさんのパワフル・ビタミン子育てトーク～わが子もあの子もマルッとシンセキ!～」

講師 ラジオD J 大阪大学非常勤講師 山本 シュウ

(イ) 特別講座「地域のチカラで子どもを育てる!～体験しよう!『あおもり親楽プログラム』～」

進行 フリーアナウンサー 伏見 憲子

講師 あおもり家庭教育アドバイザー 安ヶ平 敦志

(ウ) パネル展示

展示団体 青森市家庭教育サポーター連絡会 八戸市城北家庭教育支援チーム

つがる絆プロジェクト(つがる市) しるくはあと(おいらせ町)

今別町家庭教育支援チーム 県総合社会教育センター

県教育庁生涯学習課

(4)祖父母向け孫育て研修会の開催

県地域婦人団体連合会への委託により、家庭教育をサポートする祖父母を対象として、祖父母が読み

聞かせるのに適したおすすめの本の紹介や本の選び方、本を通じた孫との交流や本の読み聞かせ方等を学ぶ研修会を実施した。

地区	期日	場所	参加者数	内容
上北	10/31(木)	横浜町ふれあいセンター	127名	講演「人生をより深く生きる読書習慣へ誘う読み聞かせ」
中南	12/3(火)	大鰐町地域交流センター 鰐 come	210名	講師：県読書団体連絡協議会 理事 西村 恵美子

(5) 青森県家庭教育支援ネットワーク形成研修会の開催

社会全体で家庭教育を支援するため、家庭教育支援に関わる人々が一堂に会し、家庭教育の今日的な課題等について学習するとともに、家庭教育支援関係者等と市町村職員のネットワークを広げた。

○日時：1/8(水)

○場所：県総合社会教育センター

○参加者数：77名

○内容

(ア) 講義：「多様な主体とつながる先に見える『地域の姿』～豊島子どもWAKUWAKUネットワークでの事例を通して～」

講師：特定非営利活動法人豊島子どもWAKUWAKUネットワーク
理事長 栗林 知絵子

(イ) 事例発表：「子どもたちの成長を支える『地域のチカラ結集』推進事業 モデル市町村実行委員会の取組」

事例発表者：八戸市実行委員会委員、野辺地町実行委員会委員

(ウ) 情報交換会：「様々な主体とつながるために私たちができること、すべきことは何か」

講評：特定非営利活動法人豊島子どもWAKUWAKUネットワーク
理事長 栗林 知絵子

[成果と課題]

『あおもり家庭教育アドバイザー』の派遣では、派遣回数が6回、派遣人数が延べ10人であった。また、研修会には延べ202名が参加した。市町村教育委員会や各学校のPTA研修会等での活用促進に向けて周知を工夫し、派遣件数を増加させる手立てを講じる必要がある。

「あおもり家庭教育応援フェスタ」については、家庭教育の重要性について啓発することができたが、実施時期や周知手段、会場の選定等を検討することで、より多くの参加者数を得られるよう工夫する必要がある。

「青森県家庭教育支援ネットワーク形成研修会」では、家庭教育支援関係者の他、行政職員、幼稚園・保育所職員、小・中・高等学校教職員等、家庭教育支援に関わる様々な立場の方によるネットワークを形成することができた。

県総合社会教育センター

大学生とカタル！キャリアサポート形成事業 1,016千円

[事業目的及び概要]

中学生及び高校生が自らの夢に向かって主体的に行動できるように、コミュニケーション、コーチング等の研修を修了した大学生からの働きかけにより、中・高校生のやる気や意欲を引き出し、チャレンジする心を育むためのワークショップを計画的に実施する事業である。

[事業内容及び結果]

(1) ワークショップ「キャリアサポ」、「Jr.キャリアサポ」の実施

ア 実施中学校、高等学校数 20校(中学校2校、高等学校18校)

イ 参加生徒数 高校生1,999名、中学生151名

ウ 延べ参加大学生数 735名

No.	期日	実施校	対象高校生	参加大学生
1	6/15(土)	県立鶴田高等学校	全学年(7クラス106名)	44名
2	6/29(土)	八戸学院光星高等学校	2学年(7クラス106名)	52名

3	7/ 6(土)	東奥義塾高等学校	1 学年(4 クラス 132 名)	49 名
4	7/13(土)	県立弘前南高等学校	1 学年(6 クラス 220 名)	71 名
5	8/19(月)	県立三戸高等学校	2 学年(2 クラス 31 名)	20 名
6	8/23(金)	県立黒石高等学校	1 学年(4 クラス 152 名)	37 名
7	8/23(金)	県立田子高等学校	1・2 学年(2 クラス 19 名)	18 名
8	8/29(木)	弘前市立裾野中学校	全学年(3 クラス 21 名)	14 名
9	8/30(金)	青森市立荒川中学校	全学年(7 クラス 130 名)	29 名
10	9/ 2(月)	県立金木高等学校	1 学年(1 クラス 17 名)	11 名
11	9/ 2(月)	県立田名部高等学校	1 学年(5 クラス 195 名)	48 名
12	9/ 4(水)	県立青森西高等学校	1 学年(6 クラス 238 名)	67 名
13	9/ 6(金)	県立百石高等学校	1・2 学年(2 クラス 44 名)	25 名
14	9/ 6(金)	県立中里高等学校	全学年(3 クラス 34 名)	23 名
15	9/ 9(月)	県立青森商業高等学校	2 学年(6 クラス 222 名)	62 名
16	9/10(火)	県立野辺地高等学校	1 学年(2 クラス 73 名)	19 名
17	9/10(火)	県立大間高等学校	1・2 学年(4 クラス 79 名)	29 名
18	9/11(水)	県立五所川原農林高等学校	2 学年(4 クラス 136 名)	36 名
19	11/ 2(土)	県立浪岡高等学校	1 学年(2 クラス 35 名)	26 名
20	11/16(土)	八戸工業大学第二高等学校	1 学年(7 クラス 160 名)	55 名
※	3/ 3(火)	県立青森中央高等学校(中止)	1 学年(5 クラス 198 名)	
※	3/ 4(水)	県立七戸高等学校(中止)	1 学年(3 クラス 97 名)	
※	3/ 9(月)	県立五戸高等学校(中止)	1 学年(2 クラス 48 名)	

(2) キャリア形成の支援

ア 大学生会議(5/5(日)、7/14(日)、12/8(日)) 3 回 ※3/13(金) 中止

イ 実施校担当者等研修会(11/14(木)) 参加者 11 校 11 名

講 演「なぜ学ぶのか、どう学ぶのか：福島からはじまる新しい<学び>」

講 師 福島大学 教育推進機構 高等教育企画室
特任准教授 前川 直哉

事例発表「大学生とカタル！キャリアサポート形成事業」

発表者 県立三戸高等学校 教諭 村上 弘光

事業説明

説明者 県総合社会教育センター職員

ウ 大学生対象研修会の開催

○基本研修(計 7 回) 受講者数 142 名

○ワークショップ演習(計 7 回) 受講者数 139 名

○中学校対応研修(計 6 回) 受講者数 38 名

○応用研修(計 5 回) 受講者数 16 名

[成果と課題]

今年度は高等学校 18 校、中学校 2 校の計 20 校でワークショップ「キャリアサポ」を実施した。現在、「キャリアサポ」は高校生一人一人が自己の将来について深く考える一つのきっかけ作りの場となっている。昨年度から中学生を対象にワークショップを開催しているが、中学生が将来に対する幅広い職業観や進路選択について幅広く考え、自らの将来に対し、課題解決の方向を導き出す姿勢が見受けられるなど非常に良い取組となっている。今後も、各校の実態や要望に合わせて、教育効果の高いワークショップが維持できるように、研修内容の精選や参加大学生の参加しやすい環境づくりに努めていく。

高校生スキルアッププログラム推進事業 200 千円

[事業目的及び概要]

高校生の知識や経験の幅を広げ、社会の変化に柔軟に対応し、たくましく生きるための様々なスキルの向上を図るため、学校外における学習への積極的な取組を推進する事業である。

〔事業内容及び結果〕

- (1) 高校生スキルアッププログラム(スキルアップ認定証・奨励証の交付)の運営
- (2) 高校担当教員対象研修会の実施
 「担当者等研修会」の開催(大学生とカタル! キャリアサポート形成事業と共催)
 ○期日: 11/14(木)
 ○場所: 県総合社会教育センター
 ○対象: 高校生スキルアッププログラム担当教員
 ○参加者: 11校 11名
 ○事業説明・情報交換: 県総合社会教育センター職員
- (3) 評価サービス

参加校・参加生徒数・認定証および奨励証交付者数

地区	参加校数	参加生徒数	認定証交付者数	奨励証交付者数
東青	8校	258名	1名	3名
西北	1校	1名	0名	0名
中南	0校	0名	0名	0名
上北	2校	8名	2名	0名
下北	3校	600名	13名	3名
三八	7校	1,723名	10名	1名
合計	21校	2,590名	26名	7名

- (4) 県民カレッジとの連携
 ア 事業連携によるあおもり県民カレッジ新規入学者数 724名

〔成果と課題〕

未登録校への働きかけ等の事業周知を効果的に行った結果、今年度は参加校が昨年度を上回り増加した。奨励証及び認定証を交付された高校生の提出レポートを見ると、スキルアッププログラムに参加し、社会の変化に柔軟に対応できるようになったことで自信につながった。また、自分の考えを述べることができるようになった等、生徒の変容報告が各校より寄せられている。今後も生徒自身が学校外活動を通して、学習の励みや今までに経験してきた努力を積み重ね、更なる奨励証・認定証交付生徒数の増加に向けて、取組を行う必要がある。担当する高校教員からは、コミュニケーション能力、自主性、社会性、学習意欲等の向上が見られ、将来の進路選択や地域等について新たな認識を得た生徒が多く、スキルアッププログラムに取り組む高校生の励みや意欲の向上が感じられたとの感想も頂いている。

今年度、初めて奨励証を交付された高校生が出るなど、意欲を持って活動する生徒が増加しつつある。今後も、奨励証交付者数を拡充するため、奨励証取得による利点等について、今以上に県内全高校への情報提供を行い、未登録校への参加を呼びかける等、新たな周知活動を行っていく必要がある。

青森で生きる未来人財育成事業 1,161千円

〔事業目的及び概要〕

青少年の自己肯定感や主体性を高めるため、講座(中学生・高校生・大学生対象)と演習「寺子屋」(小学生・中学生・高校生・大学生対象)を実施し、実施自治体において、青少年が地域活動に参加し成長する仕組みづくりを行い、定着を図る事業である。

〔事業内容及び結果〕

- (1) 講座
 - ア 対象
 - (ア) 対象地域 東青地域(青森市)、三八地域(八戸市)
 - (イ) 受講者 延べ94人
 - イ 内容
 - コミュニケーション講座 小学生との接し方などコミュニケーションに関する内容を講義・演習を通して学習する。また、寺子屋の意義を学んだり計画を立てたりすることで、1年間の活動に見通しを持ち参加する。
 - 振り返り講座 1年間の活動を振り返る。

講座名	期日	時間	会場	人数	内容・講師等
コミュニケーション講座	6/23 (日)	15:00～ 17:00	県総合社会教育センター	10人	演習「コミュニケーションについて」 講師 県総合社会教育センター社会教育主事
	6/8 (土)	10:00～ 12:00	八戸ポータルミュージアムはっち	16人	講義「寺子屋とは」 演習「コミュニケーションについて」 講師 県総合社会教育センター社会教育主事
		14:00～ 16:00		7人	
	6/9 (日)	10:00～ 12:00		6人	
		14:00～ 16:00		9人	
	6/16 (日)	10:00～ 12:00		13人	
		14:00～ 16:00		18人	
	7/26 (土)	10:00～ 12:00		0人	
14:00～ 16:00		2人			
7/27 (日)	10:00～ 12:00	2人			
振り返り講座	1/26 (日)	10:00～ 12:00	県総合社会教育センター	8人	演習「障害理解について」 演習「こんな時どうするか考えよう」 演習「1年間の活動を振り返る」 講師 県総合社会教育センター社会教育主事
	2/8 (土)	14:00～ 16:00	根城小学校 放課後子ども教室	3人	演習「1年間の活動を振り返る」 講師 県総合社会教育センター社会教育主事
	3/21 (土)	14:00～ 16:00	吹上児童館	中止	

(2) 演習(寺子屋)

(青森会場)

- ・県総合社会教育センターを会場に実施する(週1回日曜日)

(八戸会場)

- ・児童館での交流(月1回実施)
- ・放課後子ども教室での交流(月1回程度、平日・土曜日・長期休業中)
- ・地域ボランティア活動参加

【登録者数】

	校種別	大学生等		高校生		中学生		合計
	性別	男	女	男	女	男	女	
青森会場	人数	11	15	7	17	2	7	
	合計	26		24		9		59
八戸会場	人数	0	0	6	65	0	2	
	合計	0		71		2		73

【演習参加者数】

	校種別	大学生等		高校生		中学生		合計
	性別	男	女	男	女	男	女	
青森(全31回) 県総合社会教育センター	人数	58	117	14	36	14	44	
	合計	175		50		58		283

吹上児童館会場 (6回) 吹上公民館	人数	0	0	2	39	0	0
	合計	0		41		41	
根城小学校放課後 子ども教室会場 (3回) 吹上児童館	人数	0	0	1	21	0	0
	合計	0		22		22	
寺子屋夏休み教室 七戸南公民館	人数	0	0	0	9	0	1
	合計	0		9		10	
「サンタワールド」 de 楽しもう	人数	0	0	0	15	0	2
	合計	0		15		17	
ボランティア参加 (6回) (こどもはっち主催)	人数	0	0	0	25	0	0
	合計	0		25		25	

【成果と課題】

八戸会場では、講座を複数日午前・午後の計9回設け、児童館、放課後子ども教室、ボランティア活動等多様な活動機会を設けたことで、興味がある生徒が参加しやすくなり登録者数が増加した。また、講座・演習共に満足度が4段階評価で3.9、やる気の向上は同3.8と高い評価であった。また、自由記述をキーワードで着目していくと、「やる気」「積極的」「がんばりたい」という言葉が多く出てきており、講座の趣旨である「青少年の自己肯定感や主体性を高めること」が達成できたと考える。受入れ施設からの評価は4段階中4.0であり施設のニーズに合致すると共に、高校生の頑張りを高く評価される内容となった。今後、蓄積されたノウハウを県内全域で実施できる体制作りを図る必要がある。

青少年異年齢交流モデル事業(寺子屋ありす)

【事業目的及び概要】

青少年の豊かな人間性や社会性を育むため、異年齢集団における交流活動を通して、主体的に関わり、相互に学び合い、成長できる仕組みづくりを行うモデル事業である。

【事業内容及び結果】

- (1) 対象：青少年(小学生、中学生、高校生及び大学生)
- (2) 期日：通年
- (3) 場所：県総合社会教育センター
- (4) 参加者数
 - ア 延べ参加者数 453人
 - イ 参加学校 (小学校13校、中学校5校、高等学校6校、大学等8校)

【成果と課題】

異年齢の青少年が校種を越えて互いに学び合うことで、「ナナメの関係」により相互に学び合い、自分や仲間の良さに気付き活動を行うことができた。今年度は、学生の参加が増え、各年代から満遍なく参加者が集まった。

今後は、事業としては「青森で生きる未来人財育成事業」に統合されるが、モデルとして蓄積されたノウハウを県内全域に波及させていく必要がある。

青少年社会参加活動・創作活動モデル団体研究事業

【事業目的及び概要】

青少年の社会参加活動・創作活動の推進に取り組む方策の研究を目的として、高校生・大学生等を中心に社会参加活動・創作活動を行っている団体をモデル団体に指定し、支援する事業である。

【事業内容及び結果】

- (1) 団体募集(高校生や大学生、専門学校生等を主体とした団体)
- (2) 団体の指定

【社会参加活動モデル団体】

	団体名	校種	主な活動内容	メンバー数
1	青森学生団体ASC	高校	地域活性化を目的とし、郷土(青森)の魅力を発信	12名

2	L e s t a (レスタ)	高校 大学	異年齢交流、小・中・高校生へのキャリア形成支援等	15名
3	青森中央高校読み聞かせ隊	高校	子どもたちへの絵本の読み聞かせ、三陸復興応援活動等	8名
4	L F V ～人の可能性を広げる団体～	大学	地域の子どもたちを対象とした地域の活性化活動	41名
5	キャリアサポートクラブコンソーシアム(キャリサポ連合)	大学	大学生とカタル！キャリアサポート形成事業へのボランティア参加、高校生及び大学生のキャリア形成支援	657名
6	自然サークルSDGs	大学	SDGsの理念に基づく地域の自然環境を再評価するためのアウトドア体験活動	15名
7	ゆめびと育成プロジェクトチーム	大学	職業体験イベント等による子どもたちのキャリア形成支援等	18名
8	文学研究 Think With Us	高校	文学・作家研究会の開催、研究発表会、文学資料施設での解説ボランティア	6名

【創作活動モデル団体】

	団体名	校種	主な活動内容	メンバー数
1	確原色	高校 大学 専門学校	市内高校生を主体とした合同文化イベントの企画・発表	27名

(3) 団体支援

- ア 研修室等使用料の減免
- イ 運営会議・研修・作業等での教材開発室の使用承認
- ウ 発表の場の提供(生涯学習フェア等)
- エ 情報発信用の専用掲示スペースの設置
- オ 所報「響」やHP等での活動状況の紹介
- カ 社会教育主事等による情報提供とアドバイス
- キ 地域活動団体、創作活動団体、教育活動団体等との連携に関する連絡調整
- ク 協力名義使用の承認(「協力 青森県総合社会教育センター」など)

【成果と課題】

青少年社会参加活動モデル団体8団体、青少年創作活動モデル団体1団体が指定された。主な団体支援として、研修室等使用料の減免や、社会教育主事等による情報提供とアドバイス、協力名義使用の承認等を行った。また、研究活動のため、各代表を参集した代表者会議を開催したり、平成28年度～令和元年度について、各団体への支援と団体の変容についてのアンケート調査を行い、研究紀要にまとめたりした。研究の結果、これまでの支援が各団体の活性化につながっていることが分かったので、来年度以降も支援を継続していきたい。また、今後の課題として、各団体が現在有するそれぞれの課題に対し、社会教育主事等による効果的なアドバイスを行う必要がある。

教員のためのチーム「学校・家庭・地域」連携講座

【事業目的及び概要】

新学習指導要領における「社会に開かれた教育課程」について理解を深め、その実現に向けて学校・家庭・地域が『チーム』として連携し、“未来の学校づくり・人づくり”に取り組む重要性と目的を共有し、具現化するための実践的な研修を行う事業である。

【事業内容及び結果】

- (1) 対象：小学校・中学校・高等学校・特別支援学校教員等、市町村教育委員会職員
- (2) 場所：県総合社会教育センター
- (3) 受講者数：46名

(4) 事業内容

11/19(火) 9:20～16:00

【説明】『『地域学校協働活動』について』～国・県の現状～ 県教育庁生涯学習課

【講義】『『社会に開かれた教育課程』の編成に向けて』
～地域学校協働活動とコミュニティ・スクール～

講師 秋田県生涯学習センター 学習事業班 主幹兼班長 皆川 雅仁

【実践発表①】「地域の実践活動者の取組」～子ども活動支援事業を通じて
行政・学校・家庭そして地域の協働『地域教育の目指すところ』～

実践発表者 特定非営利活動法人なんぶねっと 理事長 四戸 泰明

【情報提供】「県内のコミュニティ・スクールの現状」 県総合社会教育センター職員

【事例発表】「地域と連携した取組事例に学ぶ」

①地域とともに歩む～コミュニティ・スクールモデル校としての3年間～

十和田市立大深内中学校 教諭 成田 吉宏

②課題研究を通じて、たくましい生徒を育てるための地域連携の模索

県立田名部高等学校 教諭 堤 孝

【演習①】「目的の共有に向けて」(校種別グループワーク)

ファシリテーター 県総合社会教育センター職員

【助言】「事例発表と演習の様子から」

講師 秋田県生涯学習センター 学習事業班 主幹兼班長 皆川 雅仁

11/20(水)

【事業紹介】「教育支援プラットフォーム事業」の紹介 県総合社会教育センター職員

【実践発表②】「教育支援プラットフォーム・地区実行委員会の現状と取組」

青森県教育支援プラットフォーム下北地区実行委員会 実行委員長 竹園 正敏

【情報提供】「公共施設による連携事業紹介」(ブース形式)

県立図書館 県近代文学館 文学専門主査 武永 佐知子

県立郷土館 学芸課 主任研究主査 福士 道太

研究主査 滝本 敦

主任学芸主査 中村 理香

三内丸山遺跡センター 主幹専門員 川上 彰雄

一般社団法人三内丸山応援隊 事務局 三浦 進

鎌田 孝範

【演習②】「地域学校協働活動とコミュニティ・スクールの概念を取り入れたモデルプランづくり」(グループワーク) ファシリテーター 県総合社会教育センター職員

[成果と課題]

新学習指導要領が令和2年4月小学校より順次完全実施となることから、事前調査においても関心度が非常に高かったことに加え、講師本人が小中学校の校長や文部科学省コミュニティ・スクール推進員を歴任した実践者で、大変わかりやすく「何のために取り組むのか?」という明確な目的を共有したことで、非常に高い満足度を得ることができ、理解を深める充実した内容となった。

また、実践・事例発表や情報提供を生かした実務的演習も、様々な地域住民(社長役や町内会長役等)の立場に立った目的を共有するための『熟議』を模擬体験したことで、地域学校協働活動やコミュニティ・スクールの本質を知る実践的研修の機会を設けることができた。

今後、新学習指導要領が順次実施されていくことを受け、現状を捉えた上で「社会に開かれた教育課程」を実現する当事者として、“未来の学校づくり・地域づくり”を強く意識できるような研修内容が望まれる。

家庭教育応援隊養成講座 855 千円

[事業目的及び概要]

地域全体で家庭教育を支援する体制を整備することを目的として、各地域で子育てを応援する家庭教育支援者やリーダーを育成する事業である。

[事業内容及び結果]

(1)場所：県内2地区 上北地区(三沢キッズセンターそらいえ)
下北地区(むつ市中央公民館・下北文化会館)

(2)回数：各7回

(3)受講者数(1回以上の受講者数)：上北地区16名、下北地区25名

(4)あおもり家庭教育アドバイザー登録者：12名(上北地区7名、下北地区5名)

(5)内容

・家庭教育支援講座・演習各7回(子育てサロンの実践3回を含む)

回	地区	開催日	内容	受講者
第1回	上北	6/14(金)	【開講式・オリエンテーション】 進行 県総合社会教育センター職員	9名
	下北	6/28(金)	【講義】「社会情勢と家庭教育支援者の役割・心構え」 講師 特定非営利活動法人 子育て応援隊ココネットあおもり 代表理事 沼田 久美	12名
第2回	上北	7/12(金)	【講義】「傾聴と親が育つ支援のあり方」 講師 青森教育カウンセラー協会 副代表 佐々木 順子	13名
	下北	7/19(金)	【演習】「あおもり親楽プログラムⅠ」 進行 県総合社会教育センター職員	12名
第3回	上北	8/7(水)	【講義】「気になる子どもの理解と対応」 講師 <上北>青森中央短期大学 幼児保育学科 専任講師 松浦 淳	9名
	下北	8/17(土)	<下北>弘前大学大学院医学研究科附属 子どものこころの発達研究センター 特任准教授 栗林 理人 【演習】「あおもり親楽プログラムⅡ」 進行 県総合社会教育センター職員	19名
第4回	上北	9/5(木)	【講義・演習】「子育てサロンの企画・運営について」 講師 特定非営利活動法人 はちのへ未来ネット	9名
	下北	9/19(木)	代表理事 平間 恵美	10名
第5回	上北	10/10(木)	【実践】「子育てサロンの運営について」 進行 県総合社会教育センター職員	9名
	下北	10/24(木)	【講義】「心の通うコミュニケーション」 講師 青森県立保健大学 健康科学部看護学科人間総合科学 教授 川内 規会	9名
第6回	上北	11/6(水)	【実践】「子育てサロンの運営について」 進行 県総合社会教育センター職員	7名
	下北	11/22(金)	【講義】「読み聞かせにおける工夫点」 講師 <上北>特定非営利活動法人 はちのへ未来ネット 代表理事 平間 恵美 <下北>親子ふれあい読書アドバイザー 越膳 昌子	12名
第7回	上北	12/4(水)	【実践】「子育てサロンの運営について」 進行 県総合社会教育センター職員	9名
	下北	12/10(火)	【開講式】	11名

[成果と課題]

本事業は、昨年度から3か年かけ県内6地区で実施することから、講座内容に偏りが無いように構成したことにより、運営面でも滞り無く進めることができた。また、改善を加えたことにより、受講者の学ぶ意欲に応えることができ、毎回のアンケートからは高い満足度を得ることができた。本講座受講者のうち、あおもり家庭教育アドバイザーへの登録申請可能な方は13名で、そのうち12名から申請を受け、認定されたことは、家庭教育支援者として活動したいという意欲の表れと捉える。

来年度は、西北・中南地区での実施となるが、これまでのように家庭教育支援者として活動したい方々に、各地で既に活動している支援者や市町村教育委員会関係者等と結びつけたり、サークル等の立ち上げをする際の支援をしたりすることを見据え、より実践的に地域の力となって活躍する人材育成を目指したい。

家庭教育支援動画制作普及事業 3,648 千円

〔事業目的及び概要〕

子育てに関わる人々の抱える不安や悩みを払拭し、家庭教育の重要性を訴えるため、家庭教育支援動画及び家庭教育支援テレビ番組を制作し、専門家等によって学術的に裏付けされた子育て情報を普及させ、県内における家庭教育の充実を図る事業である。

〔事業内容及び結果〕

(1) 動画制作普及委員会の開催

動画制作普及委員会を設置し、制作内容の検討・評価等を行うとともに、動画の普及活動のあり方について検討する。

ア 家庭教育支援動画制作普及委員会委員名簿

氏名	所属等	備考
松本 大	弘前大学教育学部 准教授	委員長
加藤 知明	青森市立油川小学校 校長	副委員長
上原 恵	日本キリスト教団三本木教会立保育所型認定こども園 ひかり保育園 園長	
高坂 あつ子	社会福祉法人光福祉会幼保連携型認定こども園 ときわ保育園 園長	
豊川 沙織	六ヶ所村教育委員会社会教育課 総括主幹	
工藤 美穂	mama sun Angels 代表	

イ 家庭教育支援動画制作普及委員会の開催(委員6名)

6/4(火) 第1回動画制作普及委員会～委託候補業者の審査～

8/9(金) 第2回動画制作普及委員会～構成案に関する意見交換～

11/14(木) 第3回動画制作普及委員会～試作品視聴、試作品に関する意見交換～

(2) 家庭教育支援動画、テレビ番組の制作

ア 家庭教育支援動画(5分×5本、民間委託制作)

家庭教育の重要性を広く普及するため、家庭や地域での様々な取組を紹介する。

①家庭で決めるルールづくり～ネットに負けない子育て～

②しつけを考える

③子どもの肥満は3歳までが大事～子どもが将来健康で暮らせるために～

④発達障害～小学校・子どものための選択～

⑤働くシングルマザー～ママの悩みはママに聞け～

イ 家庭教育支援者テレビ番組(各15分)

①先輩たちに聞く～発達障害児・入学に向けての悩み～

②家庭と仕事の両立～自分らしく生きる～

(3) 県総合社会教育センターホームページ上での公開やDVD配付による周知

(4) 市町村やPTA等からの依頼による出前講座の実施

〔成果と課題〕

今年度も、子育て支援のための有益な情報を盛り込んだ動画を制作することができた。特に、青森県の課題として肥満対策や、今日的関心の高い発達障害を持つ子の進学、またしつけと虐待などについて取り上げたことは、意義深い。また、その情報の普及方法として、各市町村・関係団体等にDVDを送付したり当センターのホームページで閲覧できるようにしたりするなどしたが、特に、ホームページへのアクセスが容易になるよう、周知のためのチラシ・ポスターには2次元コードを強調したものにした。

今後も、青森県の抱える子育て問題についての情報や最新の子育て事情などについて提供するとともに、これまで制作した動画等をいかに県民に視聴し、活用していただくかを課題として展開していく。

家庭教育相談事業 408 千円

〔事業目的及び概要〕

子育て中の不安や悩みを軽減することを目的として、乳幼児から高校生の保護者や家族を対象に、電話・メール等により、寄り添い型の家庭教育相談を行う事業である。

〔事業内容及び結果〕

- (1)対 象：乳幼児から高校生の保護者や家族
- (2)実施方法：電話相談 週3回 月・水・木曜日(祝日・年末年始を除く)13:00～16:00
メール相談 24時間受付
- (3)場 所：県総合社会教育センター電話相談室
- (4)対応内容：発育・発達、しつけ、対人関係などの子どもに対する悩みや家庭教育全般について
- (5)相談体制：家庭教育支援員、県総合社会教育センター教育活動支援課員及び育成研修課員が対応
- (6)相談件数：59件(電話相談38件、メール相談21件)

〔成果と課題〕

相談件数の総数は昨年度とほぼ同数程度の59件で、大きな変化は見られなかった。しかし、メール相談については、詳細な状況確認や経過報告の為、実際のやりとりの数を含めると増加している。また、相談内容については、「不登校」「しつけ・習慣」「対人関係」に関するものが多かった。電話相談・メール相談共に、声や文章にして打ち明けた悩みに対し、寄り添いを基本姿勢とした対応をしたことにより、相談してよかったという旨の感想をいただいております、子育てに関する不安や悩みの軽減に役立っている。

一方で、社会背景を受け、想定外の新たな相談内容が増える傾向にあることから、情報収集に努め、より相談者の心情に寄り添える体制を整える必要がある。

県立図書館

子どもの読書活動推進のための図書セット貸出事業

〔事業目的及び概要〕

子どもの読書活動の環境づくりを進めることを目的として、市町村立図書館等に対して幼児、児童・生徒用図書セットを貸出する事業である。

〔事業内容及び結果〕

図書セットの内容	利用対象	前期		後期	
		配本先	配本冊数	配本先	配本冊数
1 小学校	低学年	36	3,420	34	3,240
	中学年	35	3,440	34	3,260
	高学年	36	3,560	34	3,320
2 中学校	中学校	7	380	7	380
3 読み聞かせ絵本 児童書等	保育所等	48	5,070	46	4,620
4 大型絵本	読み聞かせ活動者	48	1,055	50	965
5 テーマ別 図書セット	小・中学校 特別支援学校	10	547	12	676
6 ブックトーク セット	小・中学校、高等 学校、特別支援学 校、図書館	8	206	7	206

〔成果と課題〕

市町村立図書館等による学校図書館等との連携を支援することができている。毎年度、新しい本を利用してもらえるように、図書セットの内容更新を進める必要がある。

高校生の読書活動推進のための図書セット貸出事業

〔事業目的及び概要〕

高校生(特別支援学校高等部を含む。)の読書活動推進を目的として、高等学校図書館等に対してキャリア教育の充実、教育活動を支援する図書セットを貸出する事業である。

元年度事業の実績

[事業内容及び結果]

前期		後期	
配本先	配本冊数	配本先	配本冊数
7	700	3	300

[成果と課題]

高等学校図書館等への支援を行うことができています。配本先拡充と内容更新を進める必要がある。

県立梵珠少年自然の家

県立梵珠少年自然の家主催事業 1,623千円

(1) 看板事業

[事業目的及び概要]

教育効果が高い企画及びその運営手法などを広く普及啓発していくことを目的として、施設の魅力を生かした活動プログラムを発達段階に応じて提供していく事業である。

[事業内容及び結果]

活動名	期日	対象	参加者数	内容
9歳チャレンジ・キャンプ ～ひとりでもできるぞ!～	7/20(土)～22(月)	9歳児童 (小学3・4年生)	31名	出会いのつどい、仲間づくり交流ゲーム、家族への手紙書き、ザリガニ釣り、ふれあいビンゴ、段ボール基地作り、ホテル観察、段ボール基地泊、松倉神社登山、キャンドルサービス、野外炊事、思い出クラフト、別れのつどい
夏の7days キャンプ ～種差から梵珠へ 自転車と登山で移動する160km 真夏のチャレンジ!～	8/4(日)～10(土)	小学5年生～ 中学3年生の 児童生徒	34名	出会いのつどい、自転車隊列走行トレーニング、自転車による移動型テント泊、野外炊事、いかだ遊び、キャンプファイヤー、プール遊び、動物お世話体験、八甲田登山、星空観察、花火大会、そば打ち体験、思い出クラフト、別れのつどい
年長すくすく キャンプ ～親元を離れての1泊大冒険～	9/14(土)～15(日)	年長児	31名	出会いのつどい、仲間作りゲーム、流しそうめん、森の中で冒険遊び、テント装飾、手巻き寿司作り、読み聞かせナイト、ホットサンド作り、思い出クラフト、別れのつどい
ぼんじゅ冬キャンプ ～スノーモンスター (樹氷)を観に行こう～	2/21(金)～23(日)	小学4年生～ 中学2年生の 児童生徒	35名	出会いのつどい、仲間作り交流ゲーム、冬山スノーシューハイキング、館内炊事、キャンドルサービス、ぼんじゅ室内ペタンク、思い出クラフト、別れのつどい

[成果と課題]

看板事業は、キャンプ生活全般をとおして自立に向けた起点を作り心身のたくましさを育むことと、参加者相互や運営スタッフとの交流により、豊かな感性及び社会性を育むことを目的に新規事業として提供し3年目となった。いずれの事業も募集定員を超過する人気となっているが、特に9歳チャレンジ・キャンプ、年長すくすくキャンプは、定員の4倍～7倍の応募があり、保護者の関心の高さがうかがわれた。また、夏の7days キャンプは、県立種差少年自然の家と連携協力して実施したことにより、事業企画や運営手法を共有することができたことで他施設での実施も期待できる。

この3年間での大きな成果は、梵珠少年自然の家の周辺環境や運営スタッフの特性を生かした事業企

画運営に係るノウハウを確立したことである。次年度は、小学校1・2年生を対象とした7歳ワンツーカーキャンプを立ち上げ、年長児から中学校3年生まで幅広い年代を対象とした事業を提供する。

引き続き、安全面に十分留意して「梵珠のキャンプに参加させたら子どもが成長する」といった保護者の期待に応える事業を提供していきたい。

(2) 養成事業

[事業目的及び概要]

自然体験活動の普及を図ることを目的として、当施設の利用団体の引率者、高校生、大学生、青少年教育団体の関係者を対象に、基礎的技術の伝達や様々なプログラムを体験できる研修機会を提供し、自然体験活動の指導者及びボランティアを養成する事業である。

[事業内容及び結果]

活動名	期日	対象	参加者数	内容
在学少年宿泊指導者研修	4/23(火)～24(水)	令和元年度利用予定団体の引率者及び今後利用を考えている団体の引率者	111名	実技選択体験(野外・室内・創作の各プログラム)、宿泊体験、講義(宿泊体験学習における安全管理)、説明(日課表作成・施設利用にあたっての留意点)、演習・実践(日課表作成)
自然体験活動ボランティア入門セミナー	5/11(土)～12(日)	高校生、大学生	29名	講義、野外活動、野外炊事、キャンプファイヤー、アイスブレイク演習、自然体験における安全管理と応急処置に関する演習、施設ボランティア登録
自然体験活動ボランティア実践セミナー (1)9歳チャレンジキャンプ (2)夏の7daysキャンプ (3)ファミリーキャンプ (4)年長すくすくキャンプ (5)自然体験ぼんじゅフェスタ (6)スキルアップ研修 11/23(土)～24(日) (7)冬にとびだそう (8)ぼんじゅ冬キャンプ	実施日は各事業を参照	高校生、大学生	(1) 4名 (2) 4名 (3) 8名 (4) 12名 (5) 33名 (6) 12名 (7) 7名 (8) 8名 主催事業におけるボランティアスタッフの人数は、各主催事業の参加者数にカウントされている。	自然体験活動ボランティア入門セミナーで学んだ成果を生かし、各自が選択した(1)～(5)及び(7)～(8)の主催事業の中で、自主企画の企画立案及び運営を実践した。(スキルアップ研修はボランティアスタッフのスキルアップという位置づけで子どもは参加しない。) 【活動内容】 主催事業においては、参加者の活動支援及び安全管理、仲間づくりの促進、創作活動時の製作指導、自主企画の立案及びその運営等の実施。 スキルアップ研修においては、「アイスブレイク」の体験実習と創作演習、新メニューによる炊事実習等を実施。 ○ボランティア登録者数 45名 ○マスターボランティア有資格者数 25名

指導者養成 ～ぼんじゅ出前講座～	11月～3月 【各回即日】	幼稚園・保育園(認定こども園含む)及び 小・中学校、特別支援学校の小・中学部、PTA、青少年教育団体(子ども会、児童館、放課後子ども教室等)、公民館	1,468名	団体が開催する各種行事(事業)に出向き、自然の家が提供するプログラムの実施における指導と助言を行う。指導及び助言とは、指導者への指導法等の伝達及び助言、児童生徒への直接指導、指導者研修会等での指導及び助言や実地指導である。 活動プログラムは、自然の家ホームページにて「指導者養成～ぼんじゅ出前講座～」プログラム一覧参照
---------------------	------------------	---	--------	--

【成果と課題】

在学少年指導者宿泊研修は、当施設を利用する団体の引率者を対象に、活動プログラムの体験や、施設の特長や安全管理について理解を深めたり、利用団体間で活動場所や時間等を調整するための演習を実施している。「働き方改革関連法」の施行に鑑み、1日目の「活動プログラム体験デー」は参加者を長時間拘束しないよう選択制として実施した。

自然体験活動ボランティア入門セミナー及び同実践セミナーでは、主力を担っていた学生ボランティアが卒業により離脱しても事業運営に支障が生じないよう、切れ目なくボランティアを養成していく必要があり、今年度は45名の高校生・大学生が登録し、実践セミナーでの自主企画運営をとおして45名中25名がマスターボランティアとしての資格を得た。学生ボランティアが主催事業の重要な部分を担い、事業を活性化させている現状から、次年度も引き続き学生ボランティアの確保に努める必要がある。

ぼんじゅ出前講座については、新規団体からの要請も多くあり、活動プログラムの普及や指導者養成という点で一定の成果があったととらえている。指導を受けた団体が、用具や創作材料の提供を受けて自力で事業を運営する間接指導も広がりを見せている。次年度以降も、間接指導が普及していくように環境整備を進めていく必要がある。

(3) 親子事業

【事業目的及び概要】

親子や仲間とのふれあいを深めながら自然について学ぶとともに、自然に親しむ態度を育てることを目的として、施設周辺の自然環境を活かした多様な体験活動を行う事業である。

【事業内容及び結果】

活動名	期日	対象	参加者数	内容
春を楽しむサン day ～春の息吹を五感で感じよう～	4/28(日)	小・中学校の児童生徒とその保護者	58名	出会いのつどい、自然観察・春の生き物さがし、ピザ生地作り・ピザ焼き体験、さくら染め体験、別れのつどい
ファミリーキャンプ 家族 day 野外炊事! ～ダッチオープンに挑戦してみませんか～	8/24(土)～25(日)	小・中学生とその保護者	18家族 73名	出会いのつどい、野外活動体験、ダッチオープンによる野外炊事、キャンプファイヤー、テント泊、ホットサンドメーカーとスキレットによる野外炊事、思い出クラブ、別れのつどい
自然体験ぼんじゅフェスタ	10/27(日)	自然体験活動に関心のある方	387名	ダッチオープン体験、ピザオープンによるピザ焼き体験、本格リース作り、ぼんじゅ創作ランド、ぼんじゅわくわくランド室内・テント・野外、乗馬体験、ふくろうふれあい体験、ぼんじゅカフェ他

本格門松をつくろう	12/14(土) 午前の部、午後の部 12/15(日) 午前の部 【即日3回 両日とも同内容】	小・中学校の児童生徒とその保護者及び一般の方	303名	開会行事、製作説明、本格門松づくり(土台作り、飾り付け)、昼食提供(希望者)
冬にとびだそう ～親子で白銀の世界～	1/11(土)～12(日)	小・中学校の児童生徒とその保護者	51名	出会いのつどい、冬の自然観察、雪灯籠作り、炊事「本格きりたんぼ鍋・梵珠みそたんぼ」、夜の雪灯籠祭り、思い出クラフト、チューブそり遊び、別れのつどい

【成果と課題】

親子事業については、親子で自然に触れ自然体験活動への興味関心を高めたり、体験を共有することで家族間の交流を深めたりすることを目的に実施している。事業計画の立案には、前年度の要望や反省点を踏まえ改善したり、新しい創作プログラムや野外炊事メニュー等を取り入れていることから、連続して参加している家族から「年々ニーズを掘り起こして、新しいプログラムを提供している」という評価を得ている。

次年度は、キャンプブームの広がりを受けてファミリーキャンプを7月中旬に2回実施し、可能な限り希望する家族を受け入れる。このキャンプをきっかけに、夏休みには家族でのキャンプを実施してもらえるよう、魅力あるプログラムを提供する。

県立種差少年自然の家

県立種差少年自然の家主催事業(自然と遊ぼう、子どもの祭典) 974千円

【事業目的及び概要】

小・中学生が家族や仲間とのふれあいを深めながら、心豊かでたくましい子どもを育てることを目的として、県立種差少年自然の家周辺の山野や海での自然体験活動や創作活動、キャンプ活動などを体験する学習機会の提供をする事業である。

【事業内容及び結果】

(1) 自然と遊ぼう

活動名	期 日	対象	参加者数	内 容
たねさしワールド 「春を感じて」	5/12(日)	小・中学生とその保護者	92名	・潮風トレイルの散策 ・ビーチコーミング ・海鳥観察 等
たねさしワールド 「エンジョイ! 海遊び」①② ※2回開催	7/7(日)		180名	・いかだ遊び ・カヌー遊び ・サンドクラフト作り ・磯遊び
	7/14(日)		143名	
たねさしワールド 「秋を感じて」	10/18(日)		79名	・ネイチャービンゴ ・秋と遊ぼう&工作 ・万華鏡づくり
たねさしワールド 「冬の季節を感じて」	12/1(日)		71名	・冬の森散歩 ・葛のつる巻き ・リース飾り
たねさしワールド 「エンジョイ! 雪遊び」①② ※2回開催	1/25(土)	4歳以上の 幼保・小・ 中学生と その保護 者	75名	・スノーチューブすべり ・冬の森探検 ・そり遊び ・ぐにゃぐにゃ凧遊び
	1/26(日)		119名	

たねさしワールド 「こども大作戦」 ①② ※2回開催	2/8(土) ～9(日)	小3年 ～4年	52名	・仲間づくり ・雪灯籠づくり ・ナイトハイク・、レクリエーション、夜の森探検、創作活動 等
	2/15(土) ～16(日)	小1年 ～2年	50名	

〔成果と課題〕

自然と遊ぶでは、親子が四季折々の自然環境のもと、里山や海岸散策、創作活動を存分に楽しみ、親子の絆と参加者同士の交流を深めていた。特に、「エンジョイ！海遊び」「エンジョイ！雪遊び」では、本施設ならではの環境を生かした、「いかだ遊び」「スノーチューブ滑り」などのプログラムに申込みが殺到し定員オーバーになるほどで、参加者の興味関心がうかがわれた。アンケートの結果、参加者の満足度も極めて高く、心豊かでたくましい子どもの成長に寄与できたと感じている。

年々事業内容が認知され、参加者も増加しているが、事業によっては開催時期が他団体のイベントや学校行事と重なることもあり定員を下回ることがあった。利用促進に向けて時期変更等を考慮する必要がある。

(2) 子どもの祭典

事業名	期 日	対 象	参加者数	内 容
おいでよ！ サマーキャンプ	7/30(火) ～8/2(金)	小5年 ～中3年	46名	・テントでの宿泊体験 ・野外炊事 ・フードマップハンター ・ボンファイヤー ・磯遊び、カヌー体験 ・階上岳登山 ・ピザ窯づくり 等
わくわくどきどき ウインターキャン プ	12/25(水) ～27(金)	小5年 ～中3年	31名	・冬の野外テントでの宿泊体験 ・耐寒耐久絶景ウォッチング ・たこ揚げ ・火起こし 等

〔成果と課題〕

子どもの祭典のサマーキャンプでは、海岸や当施設周辺の里山、階上岳など地域の特性を生かしたカヌー体験、フードマップハンター、階上岳登山等を実施し、それらの自然体験活動を仲間と交流しながら楽しむ姿が見られた。ウインターキャンプでは、季節の特性や地域の特徴を生かした耐寒耐久！絶景ウォッチングを実施し、参加者がコマ図を見ながら班単位で行動したことでグループの連帯を強め、班の絆を深めることができた。

どのキャンプも参加者の健康・安全を最優先に考えた綿密な計画（時期、時間配分、内容、人員、参加者の特性など）が必要であり、特に、参加者の中には、さまざまな問題を抱える子どももいるので、職員・ボランティアで細やかな情報共有をしながら事業を充実させる。

自然体験活動支援事業 78千円

〔事業目的及び概要〕

学校や公民館、児童館などの身近な施設内外の活動場所で、子どもたちに自然体験活動の場を提供することを目的として、県立種差少年自然の家職員が現地に出向いて自然体験活動や創作活動の実地支援を行う。また、自然体験活動や創作活動の指導者の資質能力の向上を目的として、小中学校及び少年団指導者、市町村社会教育関係者等の指導職員を対象に行う研修事業である。

〔事業内容及び結果〕

事業名	期 日	対 象	参加者	内 容
自然体験活動 出前講座	4・5月及び 10月～3月 *6月～9月は 原則として実施 なし	三八、上北管内の 小・中学校、児童 館、公民館、青少 年団体や成人団 体 等	161団体 16,363名	・県立種差少年自然の家のプログラ ムの中で出前対応可能なもの (せんべい焼き、どんぐりアート、動 物マグネット、貝がらアート、種差 アロマアート等)

自然体験活動 研修会	6/2(土)～3(日)	幼・小・中学校教 員、高校・大学生、 児童館など関係 機関の指導者、そ の他自然体験活 動に興味のある 方	22名	・アドベンチャーゲーム ・ツリーイング ・スチロバールいかだ ・タイヤチューブいかだ ・避難訓練・AEDの使用法
---------------	-------------	---	-----	--

[成果と課題]

自然体験活動出前講座は、年々利用団体が増加し、各種学校はもとより、各市町村教育委員会主催事業、各公民館講座、障害者支援センター実習等、多岐にわたる団体からの依頼があり、また、リピーターも増えてきていることから、プログラムの見直しと新プログラムの作成により、一層の充実を図る。

「自然体験活動研修会」は、教員、梵珠少年自然の家、一般企業などからの様々な参加者があり、休憩時間や活動全体を通して、自然体験活動について情報交換ができるため参加者の満足度は高いことから、開催時期や周知方法について、さらに見直していく。

在学少年宿泊指導者研修 40 千円

[事業目的及び概要]

県立種差少年自然の家を利用する小・中学校及び特別支援学校等の引率教員を対象に、宿泊学習や野外活動等を効果的に行うことを目的として、活動プログラムの内容・指導の仕方や施設・設備の利用の仕方等について研修するとともに、利用する際の日課表を具体的に作成する事業である。

○期日：4/22(月)～23(火)

○場所：県立種差少年自然の家

○対象：令和元年度利用小・中学校及び特別支援学校の引率教員 63名

[事業内容及び結果]

○講義：社会教育施設としての自然の家の効果的な利用の仕方

○実習：活動プログラムの実習(野外、自然、創作活動、夜の活動)、施設等の利用方法

○演習：活動計画の立案、プログラムの相談、事前打合せ、確認

[成果と課題]

限られた時間の中で参加者は講義や説明・自然災害等による緊急時の安全対策の確認・プログラムの実習・すり合わせ等に意欲的に臨み、自らが活動や自然体験、生活体験することで、宿泊学習の引率者として必要な知識や技能を学ぶことができた。また、令和2年度からの新学習指導要領の全面実施をひかえ、プログラムによっては道徳や特別活動等の教科の時間として取り扱うこともできることを説明した結果、アンケート結果の中に「再発見になった」という感想があった。一方、日程を日帰りにすることや教員の負担軽減を希望する声があったので、講義では、「少年自然の家が考える宿泊学習のねらい」を明確に伝え、子どもが安全で安心して、宿泊学習に参加してもらうための研修であることを伝えていく必要がある。

親子で学ぶ防災キャンプ事業 206 千円

[事業目的及び概要]

県立種差少年自然の家を避難所とし、避難場所の整備・運営を体験することによって、自然災害に遭遇したときの実践的な防災力を育むことを目的として、小・中学生とその家族を対象に行う研修事業である。

[事業内容及び結果]

事業名	期 日	対象	参加者	内 容
「親子の絆」 防災キャンプ	9/21(土) ～22(日)	小・中学生と その保護者	50名	・親子で宿泊体験 ・野外炊事 ・避難用グッズづくり 等

[成果と課題]

防災キャンプに対する認知度が高まり、年々参加家族が多くなってきている。今年度は昨年度の計画を全面的に見直して、時間的に余裕のある日程にし、宿泊に関しても基本はプレーホールであるが、事情のある家族は宿泊棟も可としたり、入浴も日程に組み入れたりした。アンケートでは「無理なくゆとりのある日程や、入浴や宿泊に対する柔軟性が良かった」「宿泊体験、避難用の簡易トイレ作りは楽しく活動でき勉強になった」という感想が寄せられ、達成感や満足度が極めて高く、好評であったと言える。

現代的課題でもある防災力や減災力の養成は、今後とも地域全体に広げるために、募集期間や広報の仕方などを工夫して、幅広く集客を図る必要がある。

(2) 活力ある持続可能な地域づくりに向けた人財の育成

- ア 地域活動の実践者、コーディネーターの養成
- イ 次代の地域を担う若者の育成
- ウ 地域活動に関わる人財のネットワーク形成の支援
- エ 多様な働き方を可能にする学び直しの機会の充実

県生涯学習課

若者・女性の学び直しを通じたキャリア形成支援事業 3,876千円

〔事業目的及び概要〕

人生100年時代を見据え、職業に必要なスキルを生涯を通じて身に付けるための社会人の学び直しの推進が求められていることを踏まえ、県民の主体的なキャリア形成を総合的に支援するため、産学官民のネットワークを構築し、若者・女性向けのキャリアプランニング講座の開設及び学び直しの場への動機づけとなる啓発などを行うとともに、産学官民のネットワークを活用し、学びの入り口から出口まで切れ目のない総合的な支援体制のモデルを構築する事業である。

〔事業内容及び結果〕

(1) 青森県学び直し推進会議

- 参加機関：県内大学・短期大学、専修学校・各種学校、県関係部局、市町村、商工団体・産業支援機関、就業支援機関、民間団体
- 会議概要：第1回 7/11(木) 県総合社会教育センター
 - ・国の動向、県基本計画による方向性について
 - ・学び直しを通じたキャリア形成支援に関する情報共有
- 第2回 10/17(木) 県総合社会教育センター
 - ・学び直しを通じたキャリア形成支援に関する情報共有
 - ・新設 Web サイト「学び直しを通じたキャリア形成支援ポータルサイト」の各コンテンツや機能について
 - ・考え、学び、輝く未来へつなげるキャリアプランニング講座について
- 第3回 1/23(木) 県総合社会教育センター
 - ・学び直しの促進に向けた効果的な連携方法について

(2) 考え、学び、輝く未来へつなげるキャリアプランニング講座

ア キャリアプランニング講座

- 対象 自分の適性や能力を発揮したいと考えている若者世代の方、子育て世代の女性
- 場所、期日、内容等

	[黒石会場] スポカルイン 黒石	[三沢会場] 三沢キッズセ ンターそらいえ	[むつ会場] 下北文化会館	内容
第1回	7/13(土)	7/20(土)	7/ 6(土)	若者:自分を知る 女性:女性のワークキャリアの課題を知ろう
第2回	8/31(土)	9/ 7(土)	8/24(土)	若者:自分と仕事を知る 女性:自分を知って自信をつけよう
第3回	9/29(日)	10/12(土)	9/21(土)	若者:キャリアプランへつなげる 女性:キャリアアップへのセルフプランニング
第4回	10/26(土)	11/ 2(土)	10/19(土)	第1～3回の振り返り、ケーススタディ
第5回	11/23(土)	11/30(土)	11/16(土)	キャリアプランニング
受講者数	若者 1名 女性 2名	女性 10名	若者 2名 女性 4名	

イ フォローアップ研修会

- 期日：2/15(土) ○場所：県総合社会教育センター ○参加者数：5名
- 内容：①講義「自分らしく 働き、生きる ～新しい一歩を踏み出そう～」
講師 一般社団法人男女共同参画地域みらいねっと 代表理事 小山内 世喜子
- ②学び直しによって活躍している実践者による発表
発表者 整理収納アドバイザー 加藤 ゆか

食育インストラクター 小山 明子

③講師・発表者を交えた意見交換

(3) 学びの場への誘導

学び直しを通じたキャリア形成支援ポータルサイト「Re-Learn Aomori(リ・ラーンあおもり)」による情報発信

- 内容：①学習機会情報の検索・閲覧ページ
- ②各種支援情報に関するページ
 - ・学び直しに係る経済的支援について
 - ・キャリアプランニングについて
 - ・就業支援について
 - ・就業後のフォローアップについて
- ③eラーニングコンテンツ視聴ページ

【成果と課題】

3 地区で開催したキャリアプランニング講座では、講義や演習、グループでの意見交換を通して、自身の経験を振り返りながら強みや適性等に関する自己理解を深め、今後の就業や社会との関わりについて明確な目標を立てるなど、受講者の方々は意欲的な姿勢で参加していた。しかし、受講希望者が非常に少ない状況での開催となった。本県における学び直しの機運を高めていくために、学び直し推進会議のネットワークやポータルサイト「Re-Learn Aomori(リ・ラーンあおもり)」による情報発信を生かしながら、学びの場への誘導・動機付けを担っている本講座をより多くの若者・女性に受講してもらうよう、周知方法等を改善していく。

社会教育を核とする地域ネットワーク活用促進事業(再掲)

(P57 (1)学校・家庭・地域の協働による未来を担う人財の育成に掲載)

若者の社会参加促進事業 821 千円

【事業目的及び概要】

若者の社会参加を促進することを目的に、若者団体等が企画立案する地域の課題等を踏まえたモデル事業を実施する事業である。また、ひきこもりやニート等の課題を抱える若者の社会参加を促進することを目的として、就労体験や自然体験活動を実施する事業である。

【事業内容及び結果】

(1) 若者の社会参加促進事業プランの実践

公民館等の社会教育施設を拠点に、若者団体等の地域活動への参加や若者同士の関わり、地域のつながりを形成するモデル事業プランを実施した。

ア 東青地区(平内町)

＜企画事業の実践①＞

○期日：12/15(日) ○会場：平内町地域おこし協力隊「まちなかオフィス」 ○参加者：11名

○内容：しめ縄づくりワークショップ

平内町藤沢八幡宮に祀るしめ縄づくりに携わる地域の方を講師に招き、新年の願いを結ぶしめ縄づくりを実施した。町の湿地帯に自生する「スゲ」を使用し、参加者同士が協力しあい、それぞれのしめ縄を完成させた。

＜企画事業の実践②＞

○期日：2/16(日) ○会場：平内町地域おこし協力隊「まちなかオフィス」 ○参加者：12名

○内容：椿油しぼりワークショップ

自宅の庭木などにある椿の種を提供してもらい、その種から油をしぼり、椿油がどのような香りや味がするのかをパンにつけて試食した。さらに、椿油を使って他にどんなことができるかを話し合い、新たな企画の実施に結びつけた。

イ 西北地区(五所川原市)

＜企画事業の実践①＞

○期日：7/10(水) ○会場：県立金木高等学校 ○参加者：11名

○内容：新しい「何か」を考えるための意見交換

地域資源を生かした物産づくりのために、欲しい、作りたい、贈りたい「もの」について

て、地元高校生が意見交換やアンケート調査を行った。

<企画事業の実践②>

○期日：9/19(木) ○会場：県立金木高等学校 ○参加者：7名

○内容：欲しい、作りたい、贈りたい「もの」の決定とイメージ化

地元の魅力を発信するためのキーホルダー制作に向けたイメージの図案化を行った。

<企画事業の実践③>

○期日：1月上旬～2月中旬(4回) ○会場：県立金木高等学校 ○参加者：12名

○内容：キーホルダーの制作

業者へ自分たちのイメージを伝えるためのサンプルを作るなど、色や大きさ、形、デザイン等、こだわりのある商品が完成した。地元の魅力を発信できるよう、台紙にも特徴をもたせた。今後は、たちねぶた祭りでの販売、金木駅・斜陽館前での生徒による販売体験も予定している。

ウ 上北地区(三沢市)

<企画事業の実践>

○期日：10/9(水) ○会場：県立三沢高等学校 ○参加者：約260名(生徒240名を含む)

○内容：三沢高校生が自校で実施している総合的な学習の時間「モスプロジェクト」での取組を発展させ、「商店街活性化」や三沢市が誘致しているカナダウィルチェア(車いす)ラグビーチームへの取材を通じた「共生社会のあり方」等をテーマに深め、それぞれの取組の成果を、発表会という形態で全体に報告した。発表会には、地域の関係者のほか、次年度へつなげる観点から1学年の生徒も参加し、取組の成果を共有した。

(2) 困難を抱える子ども・若者支援

不登校が続いている高校生やひきこもり・ニート等の課題を抱える状況にあり、社会とのつながりへのきっかけを求めている16歳～概ね40歳の若者10名程度を対象に、自立支援に向け、7月に体験活動を通じた交流を、8月に就労体験を、9～10月に自然体験活動を、種差少年自然の家及び梵珠少年自然の家等にてそれぞれ1回ずつ実施した。

<種差会場>

第1回自然体験・交流塾

○期日：7/20(土) ○会場：県立種差少年自然の家 ○参加者数：27名

○内容：野外炊事、創作活動 他

第2回自然体験・交流塾

○期日：8/24(土) ○会場：県立種差少年自然の家 ○参加者数：4名

○内容：就労体験(自然の家敷地内に設置している看板の修繕作業)、創作活動 他

第3回自然体験・交流塾

○期日：9/28(土) ○会場：県立種差少年自然の家、階上岳 ○参加者数：7名

○内容：登山(階上岳) 他

<梵珠会場>

第1回自然体験・交流塾

○期日：7/13(土) ○会場：県立梵珠少年自然の家 ○参加者数：9名

○内容：野外炊事、創作活動 他

第2回自然体験・交流塾

○期日：8/31(土) ○会場：県立梵珠少年自然の家 ○参加者数：7名

○内容：就労体験(自然の家の活動プログラムで使用する小物作り)、創作活動 他

第3回自然体験・交流塾

○期日：10/5(土) ○会場：県立自然ふれあいセンター、梵珠山 ○参加者数：10名

○内容：登山(梵珠山)、創作活動 他

[成果と課題]

若者の社会参加促進事業プランでは、地域資源を生かすためのワークショップや物産づくり等に地元の若者が主体的に取り組むことで、主催する若者団体の企画力・実践力と地域貢献に向ける若者一人一人の意識が向上した。今後は、各団体がこれまでの成果とこれからの活動状況等を多様な方法で発信し、地域住民の取組に対する認知度を高めながら、さらに課題解決能力の向上を図るとともに、持続的な組織運営が可能になるよう行政や他の団体との連携を図っていくよう助言していく必要がある。

自然体験・交流塾では、県と支援団体との協力体制が一層強化され、参加者の実態に合った活動プログラムを実施することができた。また、支援団体等の職員やボランティアと様々な活動を通して交流することで、参加者のコミュニケーションに対する意欲が向上し、本事業参加後には就労に対する意欲が高まった。今後も支援団体等との意見交換のもと、コミュニケーション力の向上を目的とした魅力あるプログラムを提供することが必要である。

県総合社会教育センター

パワフルAOMORI！創造塾 1,385千円

〔事業目的及び概要〕

新たな地域活動者の発掘・育成を行うとともに、仲間づくりの促進やネットワークの形成・強化、地域活動の活性化を図り、地域コミュニティを牽引する人財を育成する事業である。

〔事業内容及び結果〕

(1) 講座内容

	期日	内容・講師等
第1回	7/20(土) ～7/21(日)	「オモイ」を共有する 【講義・演習】『「オモイを伝え・共有する」映画づくりワークショップ』 ものがたり法人FireWorks 映画監督 林 弘樹
第2回	8/17(土) ～8/18(日)	「オモイ」を耕す～自分の「オモイ」をより深く見つめる～ 【特別講義】『「選ばれる青森」へチャレンジ!!』 青森県知事 三村 申吾 【事例発表】「地域づくりの現場のまっただ中で」 市民集団まちぐみ 組長 山本 耕一郎 【講義・演習】「自分を表現する指針を育む」 合同会社ファミリーコンパス 共同代表 渋谷 聡子
第3回	10/26(土) ～10/27(日)	「オモイ」をみがく 【事例発表】「第30期パワフルAOMORI！創造塾から得たこと」 第30期パワフルAOMORI！創造塾 卒塾生 岩渕 素実 同 五十嵐 淳 【講義・演習】『「オモイ」を『カタチ』にする情熱と行動』 特定非営利活動法人 ezorock 代表理事 草野 竹史
第4回	11/30(土)	「オモイ」を「カタチ」に！ 【演習】わたしのアクションプラン大自慢大会 講評 つるた街プロジェクト 代表 岡 詩子 県総合社会教育センター 所長 児玉 政光

(2) 場所

第1～3回 県総合社会教育センター、青森公立大学国際交流ハウス(各回1泊2日)

第4回 県総合社会教育センター

(3) 参加者

・塾生17名 男性11名 女性6名 (20代8名 30代6名 40代3名)

〔成果と課題〕

全回参加が原則であることに加え、3回の講座を合宿型で実施していることから、塾生の学びと交流が深化し、地域活動を実践するネットワークが形成された。講師による指導を受けながら、参加者自身が周囲の状況からどのような課題を見いだしているのか問い直したり、課題解決に向けての具体的なプランを練ったりと、地域活動を主催して進める上でのポイントやノウハウ等を学ぶ実践的な講座内容となり、塾生の満足度も高い結果となった。また、講座を通して形成されたネットワークを活用しながら、塾生有志による自主的な地域活動が活発に計画、実施された。さらには、卒塾生とのネットワークも構築され、同窓会組織としての活動も活性化している。また、本事業を合宿型研修として進めるうえで、同窓会メンバーの協力は欠かせない。

学習内容の深まり方や企画力等には塾生により差が生じることがある。また、この差を感じて意欲が減退してしまう塾生もいる。塾生同士でフォローアップし合ったり、講師とゆっくりと話をする時間を

とったりする時間を確保する必要がある。また、同窓会組織が県内の地域活動の活性化という社会的ミッションを共有した組織に発展しつつあるので、さらにネットワークの充実や拡充、卒塾生の支援の継続が必要である。

公民館パワーアップ講座

〔事業目的及び概要〕

地域コミュニティの拠点としての公民館機能を活性化するため、公民館の運営に必要な基礎的かつ実践的な知識及び技術等について研修を行い、同時に公民館関係職員相互の連携を図る事業である。

〔事業内容及び結果〕

- (1) 対象 公民館・市民センター職員、教育委員会職員、社会教育委員、学校関係者等
- (2) 開催場所 県総合社会教育センター
- (3) 講座内容と参加者数

回数	開催日	参加人数	内 容
第1回	6/ 4(火)	31名	<p>【事例紹介】 「わたしの公民館運営のポイント～他団体との連携を通して～県内公民館2館による取り組みの紹介(年間の活動等)」 ・青森市沖館市民センター 館長 片岡 光昭 ・八戸市立柏崎公民館 館長 正部家 光彦</p> <p>【演習】 「地域づくりにつながる公民館事業をお試し企画してみよう」 講師(ファシリテーター) 弘前大学大学院 准教授 土井 良浩</p>
第2回	9/ 9(月)	22名	<p>【事例紹介】 「東日本大震災での対応を振り返る」 発表者 旭ヶ丘町内連合会 副会長 (八戸市立湊公民館 前館長) 五戸 保夫</p> <p>【グループ協議】 災害の備えについて考える</p> <p>【演習】 「避難所運営スキルを高めよう～避難所運営ゲームを使って～」 進行 総合社会教育センター職員</p>
第3回	11/11(月)	10名	<p>【演習】 「公民館職員情報交換会」(ファシリテーションの技法を使って) 進行 総合社会教育センター職員</p>
第4回	2/ 7(金)	55名	<p>【事例発表】「わたしのオススメ事業」</p> <ol style="list-style-type: none"> ①「歴史の道 奥州街道WALK」 五戸町立公民館 館長 三上 保彦 ②「野辺地町文化少年団」 野辺地町中央公民館 館長 五十嵐 勝弘 ③「Co-Minkan(現代版私設公民館) 館長になる塾」 むつ市中央公民館 館長 工藤 和彦 ④「大人の教養講座」 蓬田村教育委員会社会教育班 班長 八戸 慎幸 ⑤「地域協働で作りこむ公民館講座(碓ヶ関公民館)」 平川市平賀公民館 専門員 川上 仁 ⑥「第38回鶴田町町民文化祭を開催して」 鶴田町教育委員会社会教育班 班長 山下 晃司 コーディネーター・講評 弘前大学教育学部 准教授 松本 大

【成果と課題】

地域コミュニティの拠点としての公民館機能を活性化させるため、今年度は「連携」をテーマに、まちづくりや地域活動、公民館主催の講座で活用できる県内6地区の事例発表等を含めた研修を実施した。また、昨年度実施した「公民館等の防災・減災教育機能強化事業 避難所運営セミナー」の内容を引き継いだ講座も行った。アンケート結果から満足度は各回とも高く、参加者が期待する内容を提供できた。また、受講者同士の情報交換が活発になされ、各公民館事業実施へのヒントとすることができた。

今後は、さらに別の視点から地域コミュニティの活性化を図る事業を構想する必要がある。

地域の今と未来をつなぐ教育支援活動コーディネーター等研修 852千円

【事業目的及び概要】

学校・家庭・地域が連携・協働して地域の子供を育むために、学校と地域住民・企業・NPO・各種団体等をつなぐ「教育支援活動コーディネーター」の育成及びキャリア教育関係者のスキルアップをめざした研修を行う事業である。

【事業内容及び結果】

(1) 教育支援活動コーディネーターの育成及びスキルアップ研修の実施

ア 期日・場所：西北地区 6/11(火) 五所川原市中央公民館

三八地区 6/12(水) 八戸市福祉公民館

イ 対象：教育支援活動推進員、学校支援コーディネーター等

ウ 講師：NPO法人まなびのたねネットワーク 代表 伊勢 みゆき

エ 参加者数：西北地区 26名 三八地区 63名

(2) 地域資源を活用したキャリア教育推進フォーラムの開催

ア 期日：10/29(火)

イ 場所：県総合社会教育センター

ウ 参加者数：193名

エ 対象：教育支援活動推進員、学校支援コーディネーター、企業・NPO等キャリア教育担当者、PTA関係者、教職員等

オ 内容

①「あおもりキャリア応援企業表彰」表彰式

<受賞企業・事業所等：17社・団体>

株式会社稲見建築設計事務所(青森市)

株式会社十和田中央モータースクール(十和田市)

ふくし英数教室(青森市)

和電工業株式会社(弘前市)

社会福祉法人たいよう福祉会柳町ひまわり保育園(むつ市)

社会福祉法人 緑風会(平川市)

株式会社五所川原エフエム(五所川原市)

みちのく興業株式会社(八戸市)

株式会社ヴァンラーレ八戸(八戸市)

有限会社C'sファクトリー(むつ市)

株式会社小山内バッテリー社(弘前市)

社会福祉法人若菜会(五所川原市)

JICA 東北(青森市)

エステサロン Anje(十和田市)

城東電気株式会社(弘前市)

株式会社今工務所(五所川原市)

幼保連携型認定こども園堀越こども園(弘前市)

②表彰企業によるトークセッション及びポスターセッション

③講演「地域連携を生かした主体的・対話的で深い学びをキャリア教育と高大接続・新大学入試改革に活かすには～高校魅力化プロジェクトと社会に開かれた学び～」

講師：株式会社Prima Pinguino 代表取締役 北陸大学 経営学部 教授 藤岡 慎二

- (3)「我が社は学校教育サポーター」ウェブサイトの管理・運営
 ア 教育支援プラットフォーム「我が社は学校教育サポーター」ウェブサイトの管理・運営
 イ 新規登録事業所の開拓、登録手続き、依頼に応じた仲介業務

【成果と課題】

本事業を通じ、これからの学校教育におけるコーディネーターの役割やその重要性、必要とされるスキルの提供をすることができ、また、教員、保護者、企業関係者、コーディネーター等のキャリア教育に携わる人たちが、いずれも共有する目的を持って今後の活動へ取り組むための意欲付けができた。しかし、学校と地域・企業等の連携が十分なされていないところもあるため、さらにキャリア教育の重要性や目的を共有できる機会を持ち、教育支援プラットフォーム実行委員会、各教育事務所、市町村教育委員会等と連携を図り、情報共有をする必要がある。

生涯学習・社会教育関係職員研修講座 776 千円

【事業目的及び概要】

生涯学習・社会教育関係職員及び関係団体職員等の資質向上のため、業務遂行に係る基礎的・実務的な研修を行うとともに、地域課題の把握と課題解決につながる実践的な知識・技能の習得と人財育成を目的とした研修を行い、ネットワーク形成を図る事業である。

【事業内容及び結果】

(1) 新任職員研修

- ア 期 日：前期…5/15(水) 後期…9/26(木)
 イ 場 所：県総合社会教育センター
 ウ 回 数：2回
 エ 対 象：市町村教育委員会の生涯学習・社会教育関係新任職員や関係団体等の新任職員等
 オ 内 容：社会教育行政の業務遂行に係る基礎的な知識・技能の習得

(2) センター研修

- ア 開催時期：6月～10月
 イ 開催回数：5回(県総合社会教育センター 定員各30名)
 ウ 対 象：市町村教育委員会の生涯学習・社会教育関係職員や関係団体等の職員等
 エ 内 容：第1回…6/13(木) パワーポイントを使ったチラシづくりの実践(※定員20名)
 第2回…6/26(水) 地域に根ざした魅力的な講座をつくるために
 第3回…8/28(水) 若者が参加しやすい事業周知の在り方
 第4回…10/18(金) 企画者の想いが伝わるチラシづくりのテクニック
 第5回…10/25(金) 事業計画と評価・改善について

(3) 地区研修

- ア 開催時期：5月～10月
 イ 開催回数：6回(1回×6地区 教育事務所単位)
 ウ 対 象：市町村教育委員会の生涯学習・社会教育関係職員や関係団体等の職員等
 エ 内 容：各地区の地域課題に即した実践的な知識・技能の習得と人財育成
 東 青…7/10(水) これからの地域づくりに求められること
 西 北…9/2(月) 地域の課題解決に挑み、地域再生・地域活性化の実現に向けて
 中 南…6/20(木) 住民主体のまちづくり
 上 北…5/23(木) 貧困問題と子ども支援
 下 北…10/17(木) 企画者の想いが伝わるチラシづくりのテクニック
 三 八…10/18(金) 企画者の想いが伝わるチラシづくりのテクニック
 ※センター研修と合同開催 三八…第4回

(4) 社会教育主事等専門研修

- ア 期 日：4/23(火)
 イ 場 所：県総合社会教育センター
 ウ 回 数：1回
 エ 対 象：市町村の社会教育主事及び社会教育関係職員等
 オ 内 容：国や県の動向、社会教育主事の果たすべき役割等、生涯学習・社会教育についての講義・演習・情報交換等

[成果と課題]

今年度は、新任職員研修、センター研修、地区研修、社会教育主事等専門研修の4本柱で計13回の研修講座を実施した。アンケートや地域の課題を踏まえ、ニーズに対応したプログラムや国の動向を見据えた情報等も提供することができた。特に、講座づくりの企画・運営方法や事業評価の具体的手順を学ぶ等、実務に直結する内容で構成したことで、アンケート回答では全て90%を超える高い評価を得ることができた。

今後は、受講者のニーズに合ったプログラムに加え、社会教育行政として必要な知識・技能を習得するための専門性の高いプログラムを設定する等、担当者は常に課題意識を持ち、各市町村や関係団体職員等の「学びの場」を提供する必要がある。

(3) 生涯を通じた学びと社会参加の推進

- ア 高齢者や障害者を始めとする多様なニーズに応じた学びの機会の充実
- イ 学習成果を生かした社会参加活動の支援

県生涯学習課

特別支援学校を活用した生涯学習講座開設事業 470 千円

[事業目的及び概要]

県民の生涯学習推進と開かれた学校づくりの促進を目的として、県立学校(特別支援学校)の有する専門性の高い教育機能を開放する事業である。

[事業内容及び結果]

学校名	期間	日数 (回数)	内 容	受講者数 (延数)
県立盲学校	7 月	1 日 (2 回)	ロービジョンと点字入門	6 名(12 名)
八戸盲学校	8～9 月	6 日 (6 回)	視覚障害理解入門(点字・点訳・歩行体験・視覚障害者の進路・福祉情報)	5 名(25 名)
青森豊学校	6～9 月	7 日 (7 回)	手話講座	25 名(116 名)
青森第二高等養護学校	6～11 月	7 日 (7 回)	生涯スポーツ in 二高養	15 名(95 名)

[成果と課題]

特別支援学校が有する、より専門性の高い学校機能の開放を目的に、特別支援学校のみで講座を開設している。受講者のアンケートによれば、「学んだことを日常生活に生かし、手話の勉強に励んで聴覚障害者を支えられる人材になりたいと思った」「今後もこのような講座を続けてほしい」など、いずれの講座も満足度は高く、県民の多様な学習ニーズに対応できている。

一方で、講座開設校がある地区に限られているため、県内各地域で県民の学習ニーズにこたえられるよう、未開催地区での講座開設が実現するよう進めていく必要がある。

障害者の生涯学習支援事業 1,013 千円

[事業目的及び概要]

自立と社会参加を支援し社会性の向上を目指すことを目的として、集団学習や趣味の講座、障害者スポーツを通して他の卒業生や在校生、地域住民等と交流する機会を提供する事業である。

[事業内容及び結果]

(1) 社会参加学習

開設校	回数	時間	参加者数	主な内容
青森第二養護学校	5	16	159 名	運動会参加、ボウリング教室、学校祭参加、スポーツ体験、会報の発行
青森若葉養護学校	3	11	28 名	運動会参加、親睦旅行、スポーツ体験
青森第一高等養護学校	3	9	74 名	運動会参加、スポーツ体験、学校祭参加
青森第二高等養護学校	4	18	271 名	同窓会総会(エアロビクス体験交流)、学校祭参加、地域ブロック活動(研修会、情報交換、親睦会、ニュースポーツ交流)、同窓生の集い(ボウリング)
県立盲学校	3	10	14 名	運動会参加、学校祭参加、点字ブロック理解啓発活動
浪岡養護学校	4	7	118 名	運動会参加、DVD鑑賞会、同窓会・成人を祝う会、学校祭参加
弘前第一養護学校	4	19	76 名	スポーツレクリエーション、高等部スポーツ大会参観、親睦旅行、高等部祭参加
弘前第二養護学校	3	12	16 名	運動会参加、合同ねぷた祭り参加、学校祭参加
八戸第一養護学校	3	13	131 名	運動会見学、レクリエーション、夏を楽しむ会(成人を祝う会)、学習発表会見学、カラオケ大会

八戸第二養護学校	1	6	116名	卒業生の集い(スポーツ体験、情報交換、ボランティアとの交流)
八戸盲学校	6	18	62名	懇親会、スポーツ体験、芸術教室(合唱)、学習発表会 参観・参加
森田養護学校	3	12	89名	スポーツ体験、社会参加学習(公共機関の利用)、学校 祭参加
黒石養護学校	3	11	133名	映画鑑賞、レクリエーション(スポーツ体験)、公共施 設の利用方法及び公共マナーの学習、学習発表会鑑 賞、余暇の提供
七戸養護学校	3	13	181名	同窓会総会、成人を祝う会、同窓会交流会(公共マナ ーの学習)
むつ養護学校	3	11	142名	運動会参加、卒業生交流会、スポーツレクリエーショ ン、福祉に関する情報等の共有、ふれあいスポーツ大 会
合計	延べ回数 51回 延べ時間 186時間 参加者数合計 1,610名			

(2) スポーツ体験交流

実施日	開催場所	参加者数	内容
7/7(日)	森田養護学校	35名	フライングディスク教室
7/7(日)	弘前第一養護学校(高等部)	62名	ボッチャ教室
7/7(日)	黒石養護学校	65名	フリーフロー(吹き矢)教室
7/21(日)	青森第一高等養護学校	35名	ボッチャ教室
10/5(土)	七戸養護学校	54名	ボッチャ教室
11/30(土)	青森若葉養護学校	25名	アダプテッドスポーツ教室(フリーフローほか)
12/7(日)	青森第二養護学校	50名	ユニバーサルスポーツ教室(ボッチャほか)
合計	開催回数 7回	参加者数合計 326名	

【成果と課題】

障害者の生涯学習支援事業は、卒業生が就労先での様子や卒業後の生活について近況を報告する場となっていることに加え、卒業生に就労や福祉、健康管理等の実生活に活用できる生きた情報を提供する場ともなっている。卒業生の卒業後のつながりや生きがい等を支える役割を担っているという点で、この事業は重要である。

スポーツ体験交流は、体を動かす機会が少ない卒業生にとって、主体的に運動することができるよい機会となっている。今後も、特別支援学校を拠点として、地域住民との交流の機会を提供することで、卒業生の自立と社会参加を促すよう取り組む必要がある。

県総合社会教育センター

元気青森人を創造するeラーニング推進事業 923千円

【事業目的及び概要】

自己の生き方や働き方について考えたり人生設計したりするための学習を、県民の誰もがいつでもどこでも手軽にできることを目的として、インターネットによる講座の配信を行う事業である。

【事業内容及び結果】

インターネットによる学習教材の配信(eラーニング)

(1) 元気青森人 PowerUp コンテンツ	計	116本	(アクセス件数：776件)
ア 公開講座		8本	
イ ワンポイントアドバイス		16本	
ウ はたらく心		92本	
(2) あおもり学インターネット講座	計	43本	(アクセス件数：2,485件)
ア あおもりの自然		9本	
イ 我がふるさとあおもり		10本	
ウ あおもり学特別講座		23本	
エ 青森県の先人		1本	

(3) あおもり子育てネット	計	164 本	(アクセス件数 : 63,825 件)
ア 家庭教育支援コンテンツ		59 本	
イ 家庭教育支援啓発教材		5 本	
ウ 家庭教育支援者向け動画		13 本	
エ センター企画テレビ放送番組		32 本	
オ 子育てワンポイントアドバイス		10 本	
カ 公開講座		2 本	
キ 子育て得情報		30 本	
ク 学習コーナー		13 本	

[成果と課題]

eラーニングコンテンツは、年間を通じて定期的に県民に利用されており、生涯学習フェアで、あおもり学インターネット講座の放映を行ったところ、来場者の興味関心を高めることができた。また、あおもり子育てネットでは、動画毎に二次元コードで読み込めるリンクを設定し、チラシからスマートフォンで直接動画を見られるようにして、利用促進を図った。スマートフォンでの閲覧が中心となっていることを念頭に、今後はより閲覧のしやすいページ整備や動画ファイルの変換作業が必要である。

学習情報の収集・提供事業 7,147 千円

[事業目的及び概要]

県民の学習活動を支援することを目的として、各種学習情報を収集し、インターネットにより県民に提供するとともに、サーバ・パソコン機器等を維持管理する事業である。

[事業内容及び結果]

(1) 学習情報の収集・提供

4 情報(学習機会、指導者人材、団体・サークル、視聴覚教材)の収集・提供を行った。

・登録データ件数	学習機会情報	2,365 件
	団体・サークル情報	1,449 件
	指導者人材情報	1,088 件
	視聴覚教材情報	20,404 件
	計	25,306 件

・ありすネットアクセス回数	学習機会情報	5,117 回
	団体・サークル情報	1,734 回
	指導者人材情報	1,196 回
	視聴覚教材情報	1,464 回
	全情報	804 回
	計	10,315 回

・ありすネット検索回数	学習機会情報	2,832 回
	団体・サークル情報	581 回
	指導者人材情報	723 回
	視聴覚教材情報	773 回
	全情報	286 回
	計	5,195 回

(2) サーバ・パソコン機器等維持管理

青森県学習情報提供システム用サーバ・パソコン機器等を維持管理する。

[成果と課題]

例年同様、学習機会情報や視聴覚教材の検索が多く行われている。しかし、Web経由での情報登録件数が低いことから、情報提供者側の登録方法を簡易にするなど、システムを改善していく必要がある。

青森県視聴覚ライブラリー運営事業 528 千円

[事業目的及び概要]

16mm フィルムをはじめとする県内の貴重な映像資料を収集・保管するとともにその活用を図り、県内の視聴覚教育の振興発展に寄与することを目的として、「青森県視聴覚ライブラリー」を運営する事業である。

[事業内容及び結果]

- (1) 生涯学習社会の充実を図る基礎資料を得るための調査・研究
- (2) 社会教育及び県民の学習活動のための研修施設・視聴覚機材の提供
- (3) 全国視聴覚教育連盟への加入
- (4) 視聴覚教材の購入 17本
- (5) 視聴覚教材のデジタル化業務 185本

[成果と課題]

VHS教材の劣化を見込み、県が作成した資料を中心に、DVDへのデジタル化を行った。今後はデジタル化の作業を進める他、貴重な資料である16mmフィルムの保存状態を保つための環境を整備するとともに、活用方法について検討を進める必要がある。

あおもり県民カレッジ運營業務

[事業目的及び概要]

県民の学習ニーズが多様化・高度化する中、興味・関心の高いテーマについて体系的・継続的に学習し、その学習成果が社会から適切に評価され、学習成果を生かして社会参加できることを目的として、県民の生涯学習を総合的に支援する事業である。

[事業内容及び結果]

(1) あおもり県民カレッジの運営全般

ア あおもり県民カレッジ連携機関との関係強化

- ・ 連携機関登録団体に対し、協力関係の継続を依頼。
※連携機関数：741機関(体験施設153か所を含む)
- ・ 訪問による新規連携機関勧誘活動を実施。
- ・ 講座開催における協力などを通して、関係強化を推進。

イ 生涯学習支援のネットワーク構築

ウ 事務局の運営(県民カレッジ学生への連絡、連携機関との連絡調整、運営に関わる事務)

- ※あおもり県民カレッジ学生数 24,234名(新規839名)
- [教養学習コース 19,620名(新規779名)]
- [子どもカレッジコース 4,614名(新規60名)]

(2) 普及啓発事業

ア 学生募集(ポスターやパンフレットの作成)

- ・ あおもり県民カレッジ&生涯学習情報紙「てのひら」による募集
- ・ 生涯学習フェア、キッズフェアにおけるカレッジ体験ツアーによる募集
- ・ 連携機関等イベントでの、県民カレッジブース出展による募集

イ 生涯学習フェア2019の開催(10/5(土))

- ・ オープニング
- ・ あおもり県民カレッジ認定証交付式
- ・ 落語講演会「古典芸能を学ぼう」講師 柳家 小きん 氏
- ・ あおもり県民カレッジ連携機関等による講座、実習、体験、展示、センター事業紹介等
- ・ 事前申し込みなしで入場者が受講できる「カレッジ公開講座」を4講座開講
- ・ ボランティアのガイドによる「カレッジ体験ツアー」を実施

※入場者数 1,131名

ウ キッズフェア2019の開催(6/30(日))

子どもカレッジコースの普及啓発を図るため、生涯学習フェアのプレイベント・アフターイベントとして開催

※入場者数 1,449名

エ 学習機会提供

- ・ 無料で古典的な名作映画を見ることが出来る映画観賞会を開催(11回)

オ 生涯学習HPの作成

- ・ 指定管理者の生涯学習情報サイト<<https://www.manabi-aomori.com>>作成
- ・ 地域キャンパス講座、ボランティア自主講座等の情報掲載と更新
- ・ 生涯学習フェア等のイベント情報及び館内展示の情報掲載と更新

(3) 学習情報提供・学習相談事業

- ア 学習機会情報の収集及び提供
 - ・連携機関に対し新たな講座情報登録を依頼
 - ・連携機関等訪問による講座情報の調査収集
- イ 活動機会情報の収集及び提供
 - ・ボランティア相談に対し、受入れ団体の情報を収集、提供
- ウ 学習相談の実施
 - ・窓口・電話・FAX・郵便・Eメールによる学習相談の受付
 - ※相談数 44件
- エ 県民カレッジ&生涯学習情報紙「てのひら」の発行
 - ・あおもり県民カレッジ&生涯学習情報紙「てのひら」発行(年6回)

(4) 学習機会提供事業

- ア 地域キャンパス講座(県内6地区)開催
 - ・開催数 東青9回、西北17回、中南5回、上北8回、下北7回、三八7回
 - ・受講者数 延べ2,677名
 - ・ATVの「いきいき健やか事業」との連携によるテレビ番組公開収録を講座化し、西北(4回)、三八(1回)、下北(1回)、上北(1回)で実施。※中南(0回)
- イ ボランティア活用支援
 - ・ボランティア講師登録の奨励と自主講座の開催
 - ※講師登録数 105名
 - ※講座数 100講座 受講者数 延べ581名
 - ・生涯学習フェア、映画観賞会等における運営ボランティアの活用
 - ※活動者数 延べ146名
- ウ 「カダイ」は「マナビ」のチャンス! YOU 遊トライアル運営

(5) 評価サービス及び学習成果の活用支援事業

- ア 認定証・奨励証の交付
 - ※認定証交付数
 - 教養学習コース 452名 子どもカレッジコース 143名
- イ ボランティア活動証明書発行

[成果と課題]

カレッジ連携機関については、未加入の施設・団体に働きかけ14機関の新規加入を得た。キッズフェア2019及び生涯学習フェア2019は、青森県警察本部や自衛隊等の協力を得て、犯罪防止や災害対策の体験コーナーを設置し好評を得た。また、ボランティア活動支援では、主催事業の運営ボランティアを募り、活動機会の提供を拡大することができた。

一方で、地域キャンパス講座においては、前年度からの継続性に配慮しながら実施したが、一部の地域で、カレッジ学友会等との連携調整が間に合わず、講座開催に遅れが出たため、企画や調整方法の改善を図る必要がある。また、カレッジ学生数は毎年増加しているが、入学から一定年数を過ぎた学生の継続意思確認を実施していないため、確認方法を検討する必要がある。

インフォメーションプラザありすの運営

[事業目的及び概要]

インフォメーションプラザありす(学習情報サービス室)は、生涯学習に関する総合窓口であり、各種の相談対応のほか、視聴覚教材の貸出サービス、図書資料等の閲覧サービス等の業務を行う。

[事業内容及び結果]

- (1) 窓口対応
- (2) 社会参加活動支援センターの運営
 - ア 主催事業及び連携機関が実施する事業等における活動機会斡旋
 - イ ボランティアのつどい
- (3) 視聴覚教材貸出サービス
- (4) ポスター、チラシ、図書資料等の展示
- (5) 学習成果の展示
 - ・みんなのギャラリー、ギャラリーsha・seへの作品展示

[成果と課題]

学習スペースの利用が定着し、特に学校の試験前などは多くの学生・生徒の姿が多く見られ、打ち合わせなどで利用できることも利用者に周知され、空き研修室を利用した自主学習室を含め、目的に合った利用状況が定着してきたと言える。連携機関やカレッジ学生による成果発表の場として、ありす内に展示スペース(みんなのギャラリー)を設けたことで、利用者の交流スペースにもなっている。引き続き、快適な学習環境の整備に努めることが、総合社会教育センターの活性化に寄与するものと考えている。

ボランティア活動支援機関連絡会議

[事業目的及び概要]

ボランティア活動を支援する機関のネットワークの構築・強化を図ることを目的とし、情報共有・情報交換を行う会議を開催する事業である。

[事業内容及び結果]

あおもり県民カレッジの連携機関は、県民に広く講座を実施している機関・団体等で構成されており、学習ボランティアという視点からボランティア活動支援に関する課題について意見交換した。

地区	期日	開催場所	参加団体数	参加者数
三八	5/14	八戸市総合福祉会館	11	17
中南	5/16	弘前市総合学習センター	12	15
下北	5/20	むつ市立図書館	9	16
上北	5/21	鷹山宇一記念美術館	10	13
東青	5/28	青森県総合社会教育センター	46	52
西北	5/30	エルム文化センター	7	11

[成果と課題]

ボランティア活動支援に関する現実的な悩みや疑問点を共有し、団体相互でアドバイスをするなど、一定の成果があった。また、高校生スキルアッププログラム推進事業の周知を行うことで、団体側から高校への情報発信を促進することができた。今後は、情報交換にとどまらず、地域を横断したネットワークの構築等についても話し合う場にしていく必要がある。

県立図書館

近代文学館 特別展開催事業 2,061千円

[事業目的及び概要]

青森県の近代文学に関する理解を深めることを目的として、特定のテーマに添った特別展を開催する事業である。

[事業内容及び結果]

(1)「特別展 詩人・一戸謙三」

○会期：7/13(土)～9/23(月・祝)

○内容： 詩人・一戸謙三は、1899(明治32)年黒石町(現黒石市)に生まれた。福士幸次郎の詩集『太陽の子』に感動して詩の道に進み、日本的シュールレアリスム詩を確立後、散文詩形式による伝統とモダンの結合を試み、プロレタリア派との対立を経て、一戸は津軽方言詩へと向かう。県詩壇のリーダーとして活躍した一戸謙三の詩業に迫る展示を開催。

○展示資料数：155点(原稿23点、自筆文書6点、絵画11点、色紙6点、拓本2点、書簡1点、文書5点、印刷物2点、遺品・器物23点、図書41点、雑誌35点)

○来場者数：3,249名

(2)第1回文学講座

○日時：7/28(日)

○場所：県総合社会教育センター大研修室

○内容：講演 「地方主義と方言詩—21世紀の津軽方言詩の可能性—」

講師 工藤 正廣(北海道大学名誉教授・北海道立文学館館長)

録音声 「よみがえる一戸謙三の肉声—津軽方言詩「弘前(シロサギ)」ほか」

○来場者数：67名

(3) 第2回文学講座

○日時：8/18(日)

○場所：県総合社会教育センター大研修室

○内容：講演と朗読 「詩人一戸謙三の軌跡 方言詩の前後をよみとく」

講演 中嶋 康博(詩人・岐阜女子大学職員)

朗読 大川原 儀明(「あおもりボイスラボ」代表)、稲葉 千秋(青森朝日放送アナウンサー)

○来場者数：65名

(4) 日曜講座

○日時：9/15(日)

○場所：県立図書館集会室

○内容：講演 「一戸謙三と方言詩」

講師 伊藤 文一(青森県近代文学館室長)

○来場者数：31名

[成果と課題]

一戸謙三令孫である一戸晃氏、弘前市立郷土文学館の協力を得て、県詩壇を名実ともに牽引してきた一戸謙三の回顧展を開催した。一戸晃氏の長年にわたる詳細精緻な謙三研究の成果をもとに、新たな事実、視点を交えて構成した。第1回文学講座では、謙三の母方の親族であり、津軽方言詩の系譜を引く北海道大学名誉教授・工藤正廣氏に、謙三が切り開いた津軽方言詩が、これからの時代、どのような意味をもって展開し得るのかについてお話しいただいた。また、一戸晃氏から提供していただいた、謙三自身の朗読による津軽方言詩「弘前」の貴重な音源も公開した。第2回文学講座では、「四季」派を中心に戦後の抒情詩を研究している、詩人で岐阜女子大学職員の中嶋康博氏を招き、一戸謙三の方言詩以外の詩業についてお話しいただいた。方言詩人として知られている謙三が、実は当時最先端の詩理論に立脚して詩作を行っていたモダニズムの詩人であったことを、プロのアナウンサーお二人の詩朗読を交えながらお話しいただいた。日曜講座では、謙三の方言詩が如何なる理論・思想を背景にして生まれたのかについてお話した。

展示準備及び構成に際して蓄積した情報を、展示一回限りのもの、担当者一人のものとして埋もれさせることなく、今後の展示やレファレンス等に結び付けるための整理の仕方(データベース化)が課題である。

近代文学館 企画展開催事業 770千円

[事業目的及び概要]

青森県の近代文学に関する理解を深めることを目的として、近代文学館が収蔵している資料を展示・公開する企画展を開催する事業である。

[事業内容及び結果]

(1) 「今日出海展—直木賞受賞から70年—」

○会期：10/26(土)～1/13(月・祝)

○場所：県近代文学館企画展示室

○内容：今日出海(こん・ひでみ)は1903(明治36)年に函館で生まれた。父・武平(ぶへい)と母・綾(あや)はともに弘前出身であり、長兄の東光(とうこう)も後に直木賞作家となる。旧制浦和高校を卒業した日出海は東京帝国大学に進み、演劇や文筆活動を開始。1932(昭和7)年からは明治大学文芸科で教鞭を執る。戦中は陸軍報道班員としてフィリピン従軍を経験。1950(昭和25)年に「天皇の帽子」を発表し、第23回直木賞を受賞。1968(昭和43)年から1972(昭和47)年まで初代文化庁長官を務め、1984(昭和59)年に80歳で世を去った。「天皇の帽子」による直木賞受賞から70年という節目に当たり、作家・今日出海の生涯と足跡を紹介する展示を開催。

○展示資料数：175点(草稿12点、書画1点、遺品11点、印刷物12点、図書108点、雑誌31点)

○来場者数：2,316名

(2) 「作家×スポーツ展」

○会期：2/22(土)～5/17(日)

○場所：県近代文学館企画展示室

○内容：2020(令和 2)年に開催される東京オリンピック・パラリンピックに先駆け、県近代文学館が所蔵する「作家とスポーツにまつわる資料」を展示。そして、スポーツに熱中した作家たちのエピソードや、青森ゆかりの作家たちがスポーツをどのように観て、描いたのかについて紹介する展示を開催。

○展示資料数：188 点

○来場者数：1,258 名(3/31 現在)

[成果と課題]

「今日出海展—直木賞受賞から 70 年—」では、今圓子氏(今日出海長女)著『人物書誌大系 40 今日出海』を参考文献とした略年譜のパネル、今日出海本人の回想(『私の履歴書 38』所収)からの引用文パネル、翻訳・演劇・放送・映画のジャンル別作品年表パネル、随想集『隻眼法楽帖』所収で青森県との関わりが窺える作品からの引用パネル等を掲げ、各パネルに隣接するケースに関連性の強い資料を振り分けて展示する構成を取った。今日出海は青森県にルーツを持ち、世界を股に掛けて活躍した多才な作家であったことを認識していただく機会を多くの方に提供することができた。

「作家×スポーツ展」では、収蔵資料から「作家とスポーツにまつわる資料」を展示した。第 1 部では、近代スポーツのはじまりと変遷を、「運動会」というテーマで紹介した。第 2 部では、プレイヤーとして、観戦者として、スポーツに熱中した青森ゆかりの作家たちのエピソードを関連資料とともに紹介した。第 3 部では、青森ゆかりの作家たちのスポーツ作品、伝記、エッセイが掲載された著書・直筆資料等を種目別に紹介した。第 4 部では、「筆のオリンピック」と言われた 1964(昭和 39)年の東京オリンピック観戦記をパネルで紹介しながら、東京オリンピック開催時の資料・記事を展示した。スポーツが好きな方の興味を引くようにポスターのデザインを工夫したところ、初めて来館されたご様子のお客様が見られた。

アウトリーチサービス推進事業 223 千円

[事業目的及び概要]

来館による図書館利用が困難な重度心身障害者や要介護高齢者等に対して、宅配便による図書の搬送を行い、来館しなくても図書館資料を利用できる環境を提供する事業である。

[事業内容及び結果]

○登録者数：34 名(うち新規登録者数 3 名)

○貸 出：件数 118 件／冊数 512 点

[成果と課題]

県立図書館に直接来館することが難しい障害者や高齢者等に対して、サービスを提供することができた。課題としては、利用者が希望する資料が本館にない場合の対応が難しいことがあげられる。

(4) 社会教育推進のための基盤整備

- ア 社会教育推進体制の充実
- イ 社会教育施設の機能の充実と活用の促進
- ウ 社会教育関係職員の養成と資質の向上
- エ 社会教育関係団体等の活動の支援

県生涯学習課

生涯学習推進基盤整備事業(生涯学習推進本部、青森県生涯学習審議会) 892 千円

[事業目的及び概要]

生涯学習の振興のための施策の推進体制等の整備に関する法律の趣旨を踏まえ、本県の生涯学習推進体制を整備するため、生涯学習推進本部等を運営する。また、生涯学習推進に資する施策の重要事項について調査、審議するため、生涯学習審議会を運営する。

[事業内容及び結果]

(1) 生涯学習推進本部

生涯学習に関する関係部局相互の連携、協力を図り、生涯学習関連施策を一体的、効果的に進めるため、県の関係各課、出先機関等が実施する生涯学習関連事業について調査を行い、結果を取りまとめる。

(2) 青森県生涯学習審議会

第 14 期青森県生涯学習審議会

- 委員：15 名
- 任期：2 年(H30/10/19～R2/10/18)
- 方針：県教育長から諮問された審議テーマについて調査し、県生涯学習課が今後取り組むべき事業について審議する。
- 審議テーマ：「人口減少下における地域コミュニティ再生のための生涯学習の推進の在り方」
- 会議等の概要：第 2 回審議会 5/27(月) 持続可能な地域づくりを担う若者を支援するための仕組みづくりについて
- 第 3 回審議会 9/ 2(月) 青少年の体験活動等の推進の在り方、先進事例実地調査について
- 先進事例実地調査
 - ・十和田市「十和田子ども食堂」 10/20(日)
 - ・東京都世田谷区「プレーパークせたがや」 11/1(金)
 - ・十和田市「十和田高校会議所」 11/4(月)
 - ・八戸市「種差少年自然の家」 11/12(火)
 - ・平川市「Asobo!Hirakawa」 11/16(土)
 - ・五所川原市「梵珠少年自然の家」 11/18(月)
 - ・岩手県紫波町「オガール紫波」 11/26(火)
- 第 4 回審議会 2/27(木) 先進事例実地調査の報告、答申の骨子について

[成果と課題]

若者の支援・育成に関連する団体や青少年教育施設を対象に先進事例実地調査を行い、その結果に基づいて若者の活動を支える仕組みづくりや青少年教育施設の今後の在り方等について、議論を深めることができた。これを踏まえ、今後は引き続き答申の成案について審議いただき、答申を教育長に提出する予定である。

生涯学習・社会教育総合調査研究事業 1,161 千円

[事業目的及び概要]

本県における生涯学習・社会教育の推進を図るための基礎資料を得ることを目的として、生涯学習・社会教育支援体制に関する調査を行う。

[事業内容及び結果]

県内の公民館(中央館、地区館)及び公民館類似施設の代表者、職員、利用者を対象にアンケート方式による調査を行い、その結果を分析し、報告書にまとめる。

- 調査テーマ：「公民館の役割に関する現状調査」
- 調査対象：県内に設置されている公民館及び公民館類似施設の代表者、職員、利用者

公民館 162 館(中央館 39 館、地区館 123 館)、公民館類似施設 7 館
代表者 169 名、職員 708 名、利用者 2,080 名

○顧問の委嘱：調査研究に係る指導助言のため、大学教授等に研究顧問を委嘱

○報告書：100 部を印刷し関係機関に配付するほか、ホームページでも公開

[成果と課題]

今回の調査では、公民館には「地域づくりの拠点」としての役割が最も強く期待されているものの、主催事業においては、従来と変わらず「趣味・教養・芸術」をテーマとしたものが多く、「地域づくり・地域活性化」に関する事業の実施回数は非常に少ないことがわかった。公民館には、地域づくりの担い手となる地域住民の主体的な学びの機会を提供し、住民の力量形成を通じて「地域づくりの拠点」となることが期待されており、講座やイベント等の事業の実施を担う地域団体やサークルを育成することへのシフトチェンジも求められている。地域コミュニティの活性化に向けて、公民館と地域住民の連携・協働による有効な事業を検討していく必要がある。

青森県社会教育委員の運営 613 千円

[事業目的及び概要]

本県の社会教育推進体制の充実を図ることを目的として、社会教育法第17条に基づき青森県社会教育委員を設置し、本県社会教育の現状と振興方策について審議及び調査研究を行い、県教育委員会に答申、建議を行うことを目的として会議を運営する事業である。

[事業内容及び結果]

第34期青森県社会教育委員の会議

○委員：8名

○任期：2年(H30/10/19～R2/10/18)

○第34期青森県社会教育委員の会議における調査研究テーマ

「人づくり・つながりづくり・地域づくりの拠点としての社会教育施設の在り方」

○青森県社会教育委員の会議の概要

第3回会議 7/1(月) 調査対象とする施設、調査方法について

第4回会議 7/29(月) 実地調査の内容、調査項目について

実地調査 9月中旬～10月上旬 県内の社会教育施設(12施設)

[成果と課題]

本県社会教育の振興方策に資するため、公民館や図書館等の社会教育施設を対象に、各施設が抱える課題や事業面での特色、今後の展望等について実地調査を行った。

今後は、教育長からの諮問に基づく調査研究テーマについてさらに協議し、答申の成案を作成する予定である。

市町村の社会教育に関する現状調査及び「青森県社会教育行政」の作成 265 千円

[事業目的及び概要]

本県社会教育施策の企画・立案の資料作成を目的として、各市町村における社会教育事業実施状況及び社会教育施設・社会教育関係職員・生涯学習推進体制の状況等について調査する事業である。

[事業内容及び結果]

(1) 市町村の社会教育行政調査

(2) 市町村の生涯学習推進体制等の状況に関する調査

(3) 「平成31年(2019年)度青森県社会教育行政」の作成配付(600部作成)

[成果と課題]

県及び市町村における社会教育事業の概要・実績、社会教育行政の現状等について取りまとめ、社会教育行政関係者に広く周知した。

社会教育主事派遣事業 8,733 千円

[事業目的及び概要]

町村等の社会教育行政及び社会教育指導体制の充実を図ることを目的として、社会教育主事の資格を有する学校職員を町村等教育委員会に派遣する事業である。

[事業内容及び結果]

派遣先：上北地方教育・福祉事務組合 派遣者数：1名

[成果と課題]

派遣社会教育主事と事務組合任用の社会教育主事及び社会教育担当職員が連携して業務遂行に当たり、社会教育指導体制の充実が図られている。

社会教育主事有資格者育成派遣事業 524 千円

[事業目的及び概要]

社会教育指導体制の充実を図り、社会教育主事有資格者を育成することを目的として、教育事務所等の指導主事、小・中学校の教員を社会教育主事講習に派遣する事業である。

[事業内容及び結果]

社会教育主事講習(弘前大学)への派遣

研修期間：7/16(火)～8/8(木)

派遣者数：小学校教員 1 名

[成果と課題]

西北地区の小学校教員 1 名が弘前大学での社会教育主事講習を終了し、社会教育主事有資格者となった。社会教育主事を増やすことで、今後さらなる社会教育体制の充実を図っていく。

生涯学習専門講座派遣事業 182 千円

[事業目的及び概要]

生涯学習の進行において中核的な役割を果たす専門的職員を育成することを目的として、関係職員を中央研修に派遣する事業である。

[事業内容及び結果]

社会教育主事専門講座(国立教育政策研究所社会教育実践研究センター)への派遣

研修期間：11/5(火)～11/8(金)

派遣者数 県総合社会教育センター社会教育主事 1 名

[成果と課題]

派遣された者は、他県の事例を学び情報交換することで、業務に役立てることができた。講座は、演習や事例研究が多く設定されていることから、今後も専門的教育職員を育成するため、引き続き派遣し、最新の知見が得られるよう努める。

社会教育主事等一般研修 169 千円

[事業目的及び概要]

県社会教育関係職員が一堂に会し、県の社会教育行政の方針と重点について研修と情報交換を行い、職務遂行能力のスキルアップを図る。

[事業内容及び結果]

研修会の開催 年 1 回

[成果と課題]

討議と情報交換を通じて、施策の方向性や取り組むべき重要課題、そしてこれからの社会教育の在り方と、それを担う職員に求められる資質等について学び、職員間で共通理解が図られた。

在学青少年育成費補助事業 359 千円

[事業目的及び概要]

青少年教育の機会拡充をより一層図ることを目的として、県内の在学青少年(高校生)を対象とした講演会事業に対して助成を行う事業である。

[事業内容及び結果]

東京及びその近郊に在住する青森県出身者並びに青森県にゆかりのある方々を講師として県内高校に派遣する講演会事業に対する助成。

開催日	場 所	参加生徒数	内 容
10/10(木)	県立弘前中央高等学校	703 名	演題 「世界の貧困問題と向き合う」 講師 愛知大学 経済学部教授 佐藤 元彦
10/11(金)	県立弘前高等学校	690 名	
10/17(木)	県立青森東高等学校	786 名	演題 「グローバル社会に生きるために必要な 資質・能力について」 講師 (株)きらぼし銀行 相談役 柿崎 昭裕
10/18(金)	県立青森南高等学校	700 名	
10/30(水)	県立三沢商業高等学校	389 名	演題 「今を精一杯生きる、今を大切に生きる、 今を楽しむ」 講師 アツギ(株) 代表取締役社長 工藤 洋志
10/31(木)	県立田名部高等学校	578 名	

[成果と課題]

講師が県内出身者であり、高校生にとっては、職業観や人生観、命の大切さ、新しい分野に挑戦し続ける姿勢の大切さなどキャリア教育の一環として有益な講演会であり、今後も引き続き助成を継続していく必要がある。

社会教育を核とする地域ネットワーク活用促進事業(再掲)

(P57 (1)学校・家庭・地域の協働による未来を担う人財の育成に掲載)

県総合社会教育センター

ボランティア関係者ネットワーク形成セミナー 219 千円

[事業目的及び概要]

ボランティア関係者の資質の向上及びネットワークの構築を目的としたセミナーを開催し、本県の社会参加活動の推進及び充実を目指す事業である。

[事業内容及び結果]

<八戸会場>

8/21(水)八戸市総合福祉会館 参加者 9 名
 講義・演習 ボランティア活動の活性化を目指して
 ～求められるニーズ解決に向けて～
 講師 八戸学院大学健康医療学部 准教授 吉田 守実

<青森会場>

9/17(火)県総合社会教育センター 参加者 15 名
 講義・演習 ボランティア活動の活性化を目指して
 ～メンバーの力を引き出すコミュニケーションのヒント～
 講師 岩手県立大学社会福祉学部社会福祉学科 准教授 菅野 道生

[成果と課題]

「ボランティア活動の活性化を目指して」というテーマの下、講義の他に参加者が主体的に参加し活発に意見交換がなされる場面が多く作られ、資質の向上とともにネットワークの構築が図られた。今後県内外のボランティア活動に関する動向を見極めながら、参加者にとって主体的な学びの場となるよう本県の社会参加活動の推進と充実を目指す必要がある。

生涯学習・社会教育関係職員研修講座(再掲)

(P94 (2)活力ある持続可能な地域づくりに向けた人財の育成に掲載)

県立図書館

県立図書館資料整備 63,157 千円

〔事業目的及び概要〕

県民の生涯学習の拠点として、充実した図書館サービスを提供することを目的として、利用者の幅広い学習のための資料や情報などの整備を図る事業である。

〔事業内容及び結果〕

(1) 受入資料数(H31/4/1～R2/3/31) ※年度末集計を記入

区分	受入資料数
県立図書館(本館)	18,751 冊
市町村等協力用	4,366 冊
近代文学館	2,172 冊
合計	25,289 冊

(2) 図書館利用状況(H31/4/1～R2/3/31)

図書館利用者数	261,215 名		
近代文学館利用者数	22,228 名		
年間利用資料数	一般閲覧室	141,937 冊	※アウトリーチサービス 身障者等への配本サービス
	児童閲覧室	42,844 冊	
	オンライン貸出	6,602 冊	
	新聞未合冊等	6,242 冊	
	アウトリーチ(全体の内数)	(512 冊)	
	市町村一括(協力)貸出等	42,812 冊	
	計	240,437 冊	
年間登録者数	新規登録者数	3,256 名	※うち、アウトリーチ総登録者 数を含む。
	総登録者数	20,077 名	

(3) 市町村図書館等への貸出の状況(H31/4/1～R2/3/31)

相互貸借 (県立図書館からの貸出)	県内市町村立図書館等	5,600 冊
	県外公共図書館等	747 冊
	計	6,347 冊
団体一括貸出	28,386 冊	
集団読書用図書	110 冊	

市町村立図書館等職員研修事業 245 千円

〔事業目的及び概要〕

市町村立図書館等の運営上の課題解決、情報交換及び職員の資質向上を図ることを目的として、市町村立図書館等職員研修を実施するとともに、相互協力事業を円滑に行うために青森県立図書館事業等担当者会議を開催する事業である。

〔事業内容及び結果〕

(1) 担当者会議

ア 開催日	5/22(水)
イ 場所	県立図書館
ウ 参加者	市町村立図書館等職員 37 名
エ 内容	県立図書館と市町村立図書館等の間で行われる相互協力事業に関する説明、 情報交換会

(2) 初任者研修

ア 開催日	7/3(水)～7/4(木)
イ 場所	県立図書館
ウ 対象	勤務経験が2年以内の図書館・公民館等の職員及び学校図書館の業務を担当する職員
エ 参加者	1日目：市町村立図書館等職員23名、学校図書館業務担当職員9名 2日目：市町村立図書館等職員22名、学校図書館業務担当職員5名
オ 内容	一定レベルの図書館サービスを提供するための基礎的研修 1日目：「関係法規、公共図書館・学校図書館の現状と課題」 2日目：「資料管理、児童サービスに関する講義」

(3) 職員研修①

ア 開催日	9/3(火)・9/4(水)
イ 場所	県立図書館
ウ 対象	市町村立図書館、公民館図書室等の職員及び学校図書館の業務を担当する職員
エ 参加者	1日目：市町村立図書館等職員20名 2日目：市町村立図書館等職員15名、学校図書館業務担当職員5名
オ 内容	テーマ「資料保存研修－本の修理を中心に－」
カ 講師	公益社団法人日本図書館協会 資料保存委員会 委員長 東京都立中央図書館 資料保全専門員 眞野 節雄

(4) 職員研修②

ア 開催日	10/30(水)
イ 場所	県立弘前南高等学校
ウ 対象	市町村立図書館、公民館図書室等の職員(館長、非常勤職員等を含む)及び学校図書館の業務を担当する職員、その他希望者
エ 参加者	市町村立図書館等職員18名、学校図書館業務担当職員5名
オ 内容	テーマ「すべての子どもに学びの機会を－公共図書館の学校図書館支援を考える－」
カ 講師	弘前大学教育学部 准教授 森本 洋介

[成果と課題]

青森県立図書館事業等担当者会議では、県立図書館が実施している市町村立図書館等への支援事業の活用の促進と、県立図書館と各市町村立図書館等及び各市町村立図書館等間の連携が図られた。

初任者研修では、新たに図書館に勤務することとなった市町村職員等が、図書館の理念やサービスについて理解し、各館での円滑な日常業務の遂行に寄与した。

職員研修①では、図書館職員の資質向上のために特に重要なテーマを取り上げて実施していくことで、図書館職員に必要である継続的な研修受講の機会を設定することができた。

職員研修②では、令和2年度から本格実施される新学習指導要領において、学校図書館の機能充実がさらに求められることから、学校図書館と公共図書館等の連携を図る研修を実施することにより、学校図書館の利用促進と市町村立図書館等のサービス充実に繋がった。

いずれの研修等も、各市町村立図書館等の職員のニーズや社会の変化に応じた新たな課題等に対応するテーマでの研修内容の提供とよりわかりやすい説明、意見交換の場として活用していくことが今後さらに必要である。